

2023年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）総会
議事次第

日 程：2024年3月13日（水） 13：30～15：15 （受付開始：13:20）

会 場：オンライン会議

開会挨拶 オープンアクセスリポジトリ推進協会会長
 青山学院大学図書館長 伊達 直之

【議案】

- 第1号 2024年度会長選出について （協議）
- 第2号 2024年度監事選出について （協議）
- 第3号 2024年度運営委員会委員について （協議）
- 第4号 2024年度活動計画について （協議）
- 第5号 2024年度予算について （協議）

【報告】

- 1) 2023年度活動について （報告）
- 2) 2023年度決算について （経過報告）
- 3) JAIRO Cloud（WEKO3）への移行について （報告）
- 4) JAIRO Cloud 共同運営検討タスクフォースの活動について （報告）

閉会

議案資料：

資料 1	2024 年度 JPCOAR 会長（案）
資料 2	2024 年度 JPCOAR 監事（案）
資料 3	2024 年度 JPCOAR 運営委員会委員（案）
資料 4	2024 年度 JPCOAR 活動計画（案）
資料 5	2024 年度 JPCOAR 予算（案）

報告資料：

報告 1	2023 年度 JPCOAR 活動報告
報告 2	2023 年度 JPCOAR 決算（経過報告）
報告 3	JAIRO Cloud（WEKO3）への移行について
報告 4	JAIRO Cloud 共同運営検討タスクフォースの活動について

参考資料 1	2023 年度 JPCOAR 総会 議案・報告説明
参考資料 2-1	オープンアクセスリポジトリ推進協会会則
参考資料 2-2	オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規程
参考資料 2-3	オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程（2021 年 4 月 1 日施行）
参考資料 2-4	オープンアクセスリポジトリ推進協会作業部会設置規程
参考資料 2-5	オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)活動方針（2022-2026 年）
参考資料 2-6	2023 年度 JPCOAR 活動計画
参考資料 2-7	通常総会の電子的な通信並びに記録手段を用いた開催に関する細則
参考資料 2-8	JAIRO Cloud を共同リポジトリとして利用する場合の会費等に関する細則
参考資料 2-9	次期 JAIRO Cloud 移行タスクフォース設置に関する申合せ
参考資料 2-10	オープンアクセス推進検討タスクフォース設置に関する申合せ
参考資料 2-11	JAIRO Cloud 共同運営検討タスクフォース設置に関する申合せ

オープンアクセスリポジトリ推進協会会長（案）

運営委員会から、以下のとおり推薦します。

名古屋大学附属図書館

（任期：2024年4月1日～2025年3月31日）

以上

オープンアクセスリポジトリ推進協会監事（案）

運営委員会から、以下のとおり推薦します。

東京外国語大学附属図書館

神戸市外国語大学図書館

（任期：2024年7月1日～2025年6月30日）

以上

2024年度オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)運営委員会委員(案)

氏名	所属機関・役職	備考
1 高橋 菜奈子	東京学芸大学総務部学術情報課長	継続
2 片岡 朋子	お茶の水女子大学図書・情報課係長(利用支援担当)	(新規)
3 野中 雄司	富山大学学術情報部図書館利用支援課長	継続
4 次良丸 章	名古屋大学附属図書館事務部長	(新規)
5 杉田 茂樹	京都大学附属図書館事務部長	継続
6 鈴木 雅子	神戸大学附属図書館事務部長	継続
7 調整 中	石川県立看護大学	(新規)
8 折戸 晶子	明治大学図書館総務事務長	継続
9 佐藤 翔	同志社大学免許資格課程センター 准教授	継続
10 加川 みどり	神戸松蔭女子学院大学図書館事務課長	継続
11 林 正治	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター 特任助教	継続
12 南山 泰之	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター 特任助教	(新規)
13 吉田 幸苗	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長	継続

(任期: 2024年4月1日~2025年3月31日)

※継続予定の委員が人事異動等により委員を継続することが困難な場合、2024年4月初旬までに文書による臨時総会で承認を得ることにより、後任委員を決定することとする。

氏名	所属機関・役職	備考
1 鵜澤 和往	北海道大学附属図書館研究支援課長	(退任)
2 富岡 達治	京都大学附属図書館学術支援課長	(退任)
3 結城 憲司	九州大学附属図書館図書館企画課長	(退任)
4 田中 智子	岡山県立大学附属図書館総括主任・司書長	(退任)
5 鈴木 一巳	青山学院大学相模原事務部学術情報課長	(退任)

2024 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR) 活動計画 (案)

1. 会員機関相互の情報・ノウハウ共有の強化と人材育成	
コミュニティ・グループ	活動計画
① 広報・普及作業部会	
(ア) コミュニティ内の情報共有	機関リポジトリコミュニティの活性化のためにメーリングリスト(ML)等の企画・管理を行い、利活用を促進する。
(イ) ウェブマガジンの運営	オープンアクセスや学術情報流通に関する実践的・先進的な情報をわかりやすく編集し、JPCOAR 会員および学術情報流通に関わる人々にとって、有益かつ励みとなる記事を発行していく。
② イベント運営作業部会	
(ア) 担当者向け研修、セミナー等の実施	各会員機関の機関リポジトリ担当者が機関の特性や置かれている状況に応じて必要な研鑽を積めるような研修・セミナー、コミュニティ活性化を目的とした図書館総合展等のイベントを実施する。運営事務の一部を業者委託する。
2. 会員機関が公開するコンテンツの多様化と利活用	
コンテンツ・グループ	活動計画
① コンテンツ流通促進作業部会	
(ア) JPCOAR スキーマ	JPCOAR スキーマ Version 2.0 の普及活動を行うとともに、デジタルアーカイブのカタログ情報の流通に向けて調整する。即時オープンアクセス等国内外の動向に応じた適切なメタデータ流通が可能となるよう、情報収集や関係者との調整を図る。
(イ) DOI・ライセンス	識別子・ライセンスの調査結果に基づき、学術成果の普及・利活用を促進する。
(ウ) SCPJ	著作権ポリシーのデータメンテナンスを継続し、SCPJ の利用を推進するための方策を検討する。 公的助成を受けた研究成果の即時オープンアクセス(OA)義務化に備えるため、SCPJ のデータ項目を見直し、改訂後の様式で学協会へ再調査するとともに OA 義務化に沿った著作権ポリシーの検討・公開を促す。

② 研究データ作業部会	
(ア) RDM 教材作成	・現行の RDM 教材の利活用拡大に繋がる事業を検討・実施するとともに、学認 LMS 上の RDM 教材の内容・運用面について協力する。
(イ) RDM 事例形成	・2022 年度の機関向け RDM アンケート調査や、2023 年度の機関リポジトリのユースケースに関するアンケート調査の結果を踏まえて、会員機関による RDM に役立つ事業を検討し、実施する。 ・AXIES-RDM 部会等の外部機関と連携しながら、RDM 事例形成に繋がる事業を展開する。
3. リポジトリシステムの維持・発展の促進	
システム(JAIRO Cloud)・グループ	活動計画
① JAIRO Cloud 作業部会	
(ア) 利用サポート	・JAIRO Cloud に関する参加機関の利用のサポートをする。 ・JAIRO Cloud に関する機能・設定・操作等に関するオンラインの情報共有機会を作る。
(イ) 機能改善	JAIRO Cloud に関する機能改善の集約方法等について検討する。
(ウ) システム関連問い合わせ対応	メーリングリスト等を通じて JAIRO Cloud 利用支援を始めとする JAIRO Cloud コミュニティのサポートを行う。
② システム開発・連携作業部会	
(ア) ワークフロー開発	需要に基づくコンテンツ流通の促進とワークフローの軽減を目的に必要な調査・分析を行い、新しいワークフローの提案、必要な機能の開発協力を行う。
(イ) コミュニティ・フレームワーク	JPCOAR として指標としての利用を検討する。COAR のフレームワーク見直しに貢献する。次のアンケート調査に向けての準備を進める。
③ オープンアクセス推進検討タスクフォース	
(ア) オープンアクセスに関する調査とフィードバック	機関リポジトリを通じたオープンアクセスについて、国内外で調査を行い、会員機関に情報をフィードバックする。

2024年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）予算案

<収入の部>

科目	2024年度 予算額(A)	2023年度 決算見込額(B)	増▲減 (A)-(B)	2023年度 当初予算額	備考
1. 会費	22,464,000	22,490,000	▲ 26,000	21,814,000	2024年度会員機関数: 748(1月現在) 区分A: 668 x 2.6万円 = 17,368千円 区分B: 44 x 5.2万円 = 2,288千円 区分C: 36 x 7.8万円 = 2,808千円
計	22,464,000	22,490,000	▲ 26,000	21,814,000	

<支出の部>

科目	2024年度 予算額(C)	2023年度 決算見込額(D)	増▲減 (C)-(D)	2023年度 当初予算額(E)	備考
1. 事務局経費	5,125,000	15,359,353	▲ 10,234,353	15,299,000	
(1) 事務協力費	4,125,000	9,378,071	▲ 5,253,071	9,500,000	
事務協力費	0	5,000,000	▲ 5,000,000	5,000,000	2023年度出向元への事務協力費
事務補佐員人件費	4,125,000	4,378,071	▲ 253,071	4,500,000	事務補佐員
(2) 事務局運営費	1,000,000	5,981,282	▲ 4,981,282	5,799,000	チャットボット経費、その他
2. 運営委員会等経費	30,000	0	30,000	40,000	
活動費	30,000	0	30,000	30,000	
監事監査費	0	0	0	10,000	オンラインのため旅費支出なし
3. 総会経費	450,000	1,174,142	▲ 724,142	410,000	
総会会場費	0	0	0	0	オンライン会議想定
総会運営費	400,000	407,000	▲ 7,000	400,000	オンライン会議運営支援
総会旅費	50,000	35,740	14,260	10,000	会長・委員長旅費
総会ミーティング会場費	0	137,440	▲ 137,440	0	
総会ミーティング出張費	0	593,962	▲ 593,962	0	
4. 図書館総合展出展	900,000	484,885	415,115	450,000	
総合展会場費	400,000	0	400,000	0	
総合展運営費	500,000	484,885	15,115	450,000	オンライン配信費用
5. 事業推進経費	13,659,000	2,526,501	11,132,499	3,400,000	
広報・普及作業部会	420,000	285,627	134,373	450,000	ウェブマガジン運営費・取材費・反訳費
イベント運営作業部会	800,000	1,320,640	▲ 520,640	2,000,000	オンラインイベント配信委託経費
コンテンツ流通促進作業部会	1,000,000	502,744	497,256	100,000	学協会ポリシー調査・SCPJ更新費用
研究データ作業部会	950,000	134,950	815,050	50,000	海外招聘、会議発表費用
JAIRO Cloud作業部会	600,000	0	600,000	0	JC操作説明会、作業部会費用
システム開発・連携作業部会	0	0	0	0	
次期JAIRO Cloud移行TF	0	249,310	▲ 249,310	800,000	2023年度で活動終了
オープンアクセス推進検討TF	40,000	33,230	6,770	0	タスクフォース開催旅費
調査等事業推進経費	5,025,000	0	5,025,000	0	事務局経費から活動予算として振替え
窓口業務委託経費	4,824,000	0	4,824,000	0	2023年度までは事務局運営費として計上
6. 国際連携活動費	2,300,000	2,897,519	▲ 597,519	2,215,000	
海外派遣旅費	1,000,000	1,164,774	▲ 164,774	1,000,000	COAR総会・国際会議出席
出張報告会	0	506,000	▲ 506,000	0	
COAR会費	1,300,000	1,226,745	73,255	1,215,000	2024年COAR年会費
計	22,464,000	22,442,400	21,600	21,814,000	

※支出のうち不足額については、国立情報学研究所予算からの支援により支出する。

JAIRO Cloud利用料金

<収入の部>

科目	2024年度 暫定予算額(E)	2023年度 決算見込額(F)	増▲減 (E)-(F)	2023年度 当初予算額	備考
JAIRO Cloud利用料金	82,896,000	80,696,000	2,200,000	78,496,000	
計	82,896,000	80,696,000	2,200,000	78,496,000	

<支出の部>

科目	2024年度 暫定予算額(G)	2023年度 決算見込額(H)	増▲減 (G)-(H)	2023年度 当初予算額	備考
JAIRO Cloud運用費	82,896,000	80,696,000	2,200,000	78,496,000	
計	82,896,000	80,696,000	2,200,000	78,496,000	

2024年度予算案の科目の整理について

「5. 事業推進経費」を新設し、次の整理を行った。

1. 事業推進経費には各種協会活動を推進する事業経費を計上することとした。2024年度は、作業部会活動費、調査等事業推進経費、問い合わせ対応窓口の業務委託経費を計上する。
2. 出向者に対する事務協力費は「事務局経費」から「事業推進経費」へ移し、調査等事業推進経費に計上する。2024年度より出向者の業務から事務作業を削除し事務局には配置しないこととし、協会の活動に関連した調査、研究、活動支援を行う業務内容に限るとしたためである。
3. 問い合わせ対応窓口の業務委託経費は、2023年度まで事務局運営委費として計上されていた。

2024年3月13日
オープンアクセスリポジトリ推進協会

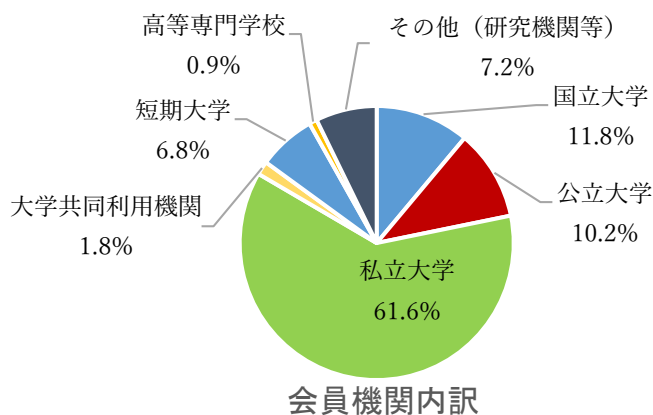
2023年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）活動報告

1. 組織・体制

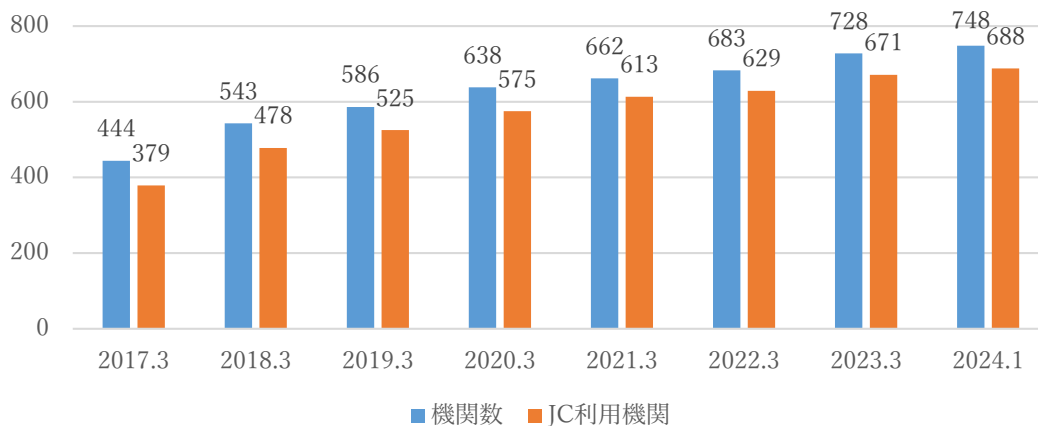
(1) 会員機関状況

種 別	機 関 数	JC 利用機関
国立大学	83	66
公立大学	80	79
私立大学	461	431
大学共同利用機関	12	11
短期大学	51	49
高等専門学校	7	7
その他（研究機関等）	54	45
合計	748	688

(2024年1月31日現在)



(2) 推移



(3) 運営体制

会長	青山学院大学（2022年4月1日～2024年3月31日）
監事	東京海洋大学（2022年7月1日～2024年6月30日） 前橋工科大学（2023年7月1日～2024年6月30日）
運営委員	14名（会員機関選出）
作業部会員	57名（会員機関選出）
事務局	4名（会員機関からの出向1名、JPCOAR 有期雇用1名、NII から支援2名）

2. 会議等

(1) 総会

通常総会

- ・ 2024年3月13日 通常総会（オンライン会議・投票）【開催予定】

臨時総会

- ・ JPCOAR 運営委員会規程改正（2023年4月13日メールにより審議・承認）
- ・ 2022年度決算の承認（2023年5月15日監事監査で適正との報告を受け、6月6日メールにより審議・承認）

(2) 運営委員会

第20回（2023年6月9日）

- ・ 2023年度運営委員会・作業部会（TF）・事務局の体制について（報告）
- ・ オープンアクセス推進検討タスクフォース設置に関する申合せについて（審議）
- ・ 2023年度予算及び作業部会等の活動計画について（審議）
- ・ CoCOAR Web マガジン化の進捗について（審議）
- ・ JPCOAR ロゴマークガイドラインおよび広報について（審議）
- ・ JPCOAR リーフレットの改訂について（審議）
- ・ 2023年図書館総合展（10月）フォーラム出展について（審議）
- ・ 2022年度決算および監査報告について（報告）
- ・ 報告事項

第21回（2023年6月20日）

- ・ 【Aグループ】 JAIRO Cloud (WEKO3) 移行環境確認について

第22回（2023年10月18日）

- ・ 次期 JAIRO Cloud (WEKO3) の本番移行について
- ・ JAIRO Cloud の新ロゴマークのリリースについて
- ・ 次期 JAIRO Cloud 移行タスクフォースから JAIRO Cloud 作業部会への切り替えについて
- ・ JAIRO Cloud (WEKO3) における JPCOAR スキーマ Version 2.0 対応について
- ・ SCPJ の今後の運用方針について
- ・ 「2025年度新規公募分からの学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向け

て」文部科学省との協議

- ・ 作業部会員・タスクフォースメンバーの追加
- ・ 各作業部会・TF 活動中間報告
- ・ 問合せ対応におけるチャットボット等の活用について
- ・ 図書館連携・協力室への出向について
- ・ その他

第 23 回 (2023 年 11 月 29 日, 12 月 1 日)

- ・ 会員機関向けアンケートの実施の背景
- ・ 会員機関向けアンケートの実施の結果
- ・ その他

第 24 回 (2024 年 2 月 1 日)

- ・ JAIRO Cloud (WEKO3)のアップデートについて
- ・ 各作業部会・TF 活動報告
- ・ JAIRO Cloud 共同運営 TF 活動報告及び JAIRO Cloud 分科会の提案
- ・ 2023 年度 JP COAR 予算執行状況
- ・ 会長校について
- ・ 2023 年度 JPCOAR 総会議事について
- ・ 2024 年度 NII へのオープンアクセスリポジトリ推進協会への活動支援について

(3) 作業部会・タスクフォースのミーティング

- ・ 広報・普及作業部会 (2023 年 5 月 16 日、6 月 15 日、7 月 20 日、8 月 10 日、9 月 21 日、10 月 19 日、11 月 14 日、12 月 21 日、1 月 18 日)
- ・ イベント運営作業部会 (2023 年 6 月 1 日)
- ・ コンテンツ流通促進作業部会 (2023 年 6 月 7 日、11 月 29 日)
- ・ 研究データ作業部会 (2023 年 6 月 8 日、7 月 5 日、12 月 6 日)
- ・ システム開発・連携作業部会 (2023 年 8 月 3 日)
- ・ 次期 JAIRO Cloud 移行タスクフォース (2023 年 6 月 28 日、8 月 9 日、9 月 20 日、12 月 5 日)
- ・ オープンアクセス推進検討タスクフォース (2023 年 6 月 27 日、7 月 11 日、7 月 28 日)
- ・ JAIRO Cloud 共同運営検討タスクフォース (2023 年 12 月 25 日、2024 年 1 月 15 日、1 月 23 日)

その他、作業部会下のプロジェクト及びチーム単位でのオンライン会議等を随時開催。

3. 2023 年度作業部会・タスクフォースの活動

(1) 各作業部会・タスクフォースの活動

- 1) 広報・普及作業部会
 - ・ 新ロゴマークリリース、公式リーフレット改訂、ウェブマガジン発行、メーリングリスト管理、「オープンアクセス方針リンク集」更新
- 2) イベント運営作業部会
 - ・ 学術コミュニケーションセミナー (JPCOAR Webinar) (オンライン)
 - ・ 第1回「JPCOAR 作業部会の紹介」(2023年4月12日、42名参加)
 - ・ 第2回「オープンアクセス新任担当者相談会」(2023年8月8日、92名参加)
 - ・ 第3回「学術情報流通を取り巻く現在の状況」(2023年9月25日、164名参加)
 - ・ 第4回「IRDB-カラクリと役割：どこから・どこへ・どのように-」(2024年1月17日、(参加者未集計))
 - ・ 図書館総合展フォーラム (ハイブリッド)
 - ・ 「JPCOAR meets JUSTICE：大 OA 時代の中を漕ぎ進む大学図書館」(2023年10月25日、90名現地参加、オンライン配信視聴回数：486回)
- 3) コンテンツ流通促進作業部会
 - ・ JPCOAR スキーマ ver2.0 に対応した「DOI 管理・メタデータ入力ガイドライン」の改訂・公開 (6月9日)、JPCOAR スキーマ ver2.0 に対応した「メタデータ流通ガイドライン」<共通編>の更新 (10月24日)、COAR の Multilingual and Non-English Content Task Force による推奨指針の解説会 (11月27日、115名参加)、SCPJ データ項目の整理およびデータメンテナンス体制の検討
- 4) 研究データ作業部会
 - ・ 研究データが機関リポジトリに登録されるユースケースを整理・活用、RDM 教材がどのように使われるのかのユースケースを調査
- 5) システム開発・連携作業部会
 - ・ 需要に基づくコンテンツ流通の促進とワークフローの軽減を目的とした調査・分析、ワークフローをサポートするためのシステムを開発予定
- 6) 次期 JC 移行タスクフォース
 - ・ JAIRO Cloud (WEKO3) 本番移行に伴う問い合わせ対応、操作説明会の希望について会員機関ウェブアンケート実施 (11月22日~30日)
- 7) オープンアクセス推進検討タスクフォース
 - ・ ダイヤモンド OA、機関リポジトリでのオリジナル出版、ゴールド OA の伸長、転換契約とその出口戦略、研究評価との関係に関する意見交換。主要論点に関連した海外文献の読み合わせ
 - ・ 国大図協 OS 小委、JUSTICE との共同作業で BOAI 20th Anniversary Recommendations 日本語版を作成中
- 8) JAIRO Cloud 共同運営検討タスクフォース
 - ・ JAIRO Cloud 共同運営における NII、JPCOAR の役割の明確化についての検討

(2) 海外会議参加

- 1) COAR Annual Meeting (2023年5月16~18日)(コスタリカ、オンライン参加)
 - 国内 COAR members のオンライン参加
- 2) Open Repositories 2023 (2023年6月12~15日)(南アフリカ、現地参加)
 - (ア) Building Synergies in Capacity Development for Open Scholarship (Jun Maeda : National Institute of Informatics) (Ilkay Holt1 : The British Library, Iryna Kuchma : EIFL, Omo Oaiya : WACREN) JPCOAR 事務局員のパネルディスカッション参加
 - (イ) Development of OA Assist System for JAIRO Cloud (Jun Maeda : Hokkaido University Library) (Masashi Kawai, Masaharu Hayashi, Kazutsuna Yamaji : NII) JPCOAR 事務局員と RCOS による日本の機関リポジトリに関する事例報告
- 3) Global Summit on Diamond Open Access (10月25~26日)(メキシコ、現地参加)
- 4) 18th International Digital Curation Conference (2月19日~21日)(イギリス、現地参加)

(3) 成果物

- ・ 「JPCOAR ウェブマガジン」の開始
<https://www.magazine.jpcoar.org/>
- ・ 各 JPCOAR Webinar について：配布資料／動画を公開
<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/monthly>
- ・ IRDB データ提供機関のための DOI 管理・メタデータ入力ガイドライン : JPCOAR スキーマ ver2.0.x 編
<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/2000282>
- ・ Japan Open Science Summit 2023 セッション E2 「メタデータの系譜を探る：研究データの相互運用性の向上に向けて」(6月23日)
「機関リポジトリのメタデータスキーマ JPCOAR スキーマの紹介」片岡 朋子
<https://doi.org/10.34477/0002000292>
- ・ 第25回図書館総合展 国立情報学研究所主催フォーラムへの参加(10月26日)
「若手の図書館員よ海外に行こう」三上、松野、佐藤、片岡
<https://www.nii.ac.jp/event/other/libraryfair/2023/>
- ・ JPCOAR 会員機関向けイベント「リポジトリにおける多言語・非英語コンテンツの管理のための推奨事項に関する解説会」(11月27日)
「推奨事項の解説」三上 絢子
<https://doi.org/10.34477/0002000340>

「趣旨説明」「JPCOAR スキーマ/IRDB の推奨事項への対応状況」片岡 朋子

<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/2000341>

- ・ SPARC Japan セミナー2023「即時 OA に備えて：論文・データを「つかってもらおう」ためのライセンス再入門」（11月28日）
「研究成果をより広く公開するためのライセンス付与について：CCライセンス付与の経験から」講師：野村周平
https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2023/pdf/20231128_6.pdf
- 3) Mikami, A. An analysis of Research Data Publishing in Japanese Research Institutions: RORID and DataCite API Case Study. Persistent Identifiers Towards Open Science in Japan (and the Asia-Pacific Region), 2024.1.10, JST Tokyo Headquarters Annex, Tokyo, Japan. Zenodo.
<https://doi.org/10.5281/zenodo.10494845>
- 4) JAIRO Cloud (WEKO3) サポートの更新（基本マニュアルの更新、「本番移行における重要情報まとめ」「本番移行後の IRDB ハーベストについて」ページの作成）
<https://meatwiki.nii.ac.jp/confluence/display/JAIROCloudWEKO3>

1) オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会名簿

氏名	所属機関・役職	主査・担当
鶴澤 和往	北海道大学附属図書館研究支援課長	
高橋 菜奈子	東京学芸大学総務部学術情報課長	JAIRO Cloud 共同運営検討 タスクフォース主査
野中 雄司	富山大学研究推進部学術コンテンツ 課長	広報・普及作業部会主査
富岡 達治	京都大学附属図書館研究支援課長	
杉田 茂樹	京都大学附属図書館事務部長	運営委員会委員長 オープンアクセス推進検討タ スクフォース主査
鈴木 雅子	神戸大学附属図書館事務部長	
結城 憲司	九州大学附属図書館図書館企画課長	
田中 智子	岡山県立大学附属図書館総括主任・ 司書長	
鈴木 一巳	青山学院大学相模原事務部学術情報 課長	
折戸 晶子	明治大学図書館総務事務長	
佐藤 翔	同志社大学免許資格課程センター 准教授	国際担当
加川 みどり	神戸松蔭女子学院大学図書館事務課 長	
林 正治	国立情報学研究所オープンサイエン ス基盤研究センター特任助教	システム開発・連携作業部会 主査
吉田 幸苗	国立情報学研究所学術基盤推進部学 術コンテンツ課長	総務・財務担当

※2023年3月16日の総会審議にて承認。

2023 年度 作業部会活動報告

1. 広報・普及作業部会
2. イベント運営作業部会
3. コンテンツ流通促進作業部会
4. 研究データ作業部会
5. システム開発・連携作業部会
6. 次期 JAIRO Cloud 移行タスクフォース
7. オープンアクセス推進検討タスクフォース
8. JAIRO Cloud 共同運営検討タスクフォース

[広報・普及作業部会]2023 年度活動報告

主査：野中 雄司

1. 2023 年度活動計画

(1) 広報誌

- ・ ウェブマガジンを発行し、JPCOAR の活動成果発信および情報提供を行う。また、広報資料の作成を行う。さらに、ROARMAP 対応等、OA ポリシーリストの管理を行う。

(2) ML 管理・ウェブサイト

- ・ ウェブサイト・SNS での迅速な情報発信を行う。また、メーリングリスト(ML)の管理を行い、利活用を促進する。

2. 会合・活動

- ・ 5月16日 第1回ミーティング（オンライン 以下同）
- ・ 6月15日 第2回ミーティング
- ・ 6月22-23日 国立大学図書館協会総会ブース出展
- ・ 7月20日 第3回ミーティング
- ・ 8月10日 第4回ミーティング
- ・ 9月21日 第5回ミーティング
- ・ 10月19日 第6回ミーティング
- ・ 10月26日 図書館総合展共同運営
- ・ 11月14日 第7回ミーティング
- ・ 12月21日 第8回ミーティング
- ・ 12月26日 第1回 JPCOAR ウェブマガジン編集会議
- ・ 1月18日 第9回ミーティング
- ・ 1月下旬 第2回 JPCOAR ウェブマガジン編集会議（予定）
- ・ 2月 第10回ミーティング（予定）
- ・ 3月 第11回ミーティング（予定）

3. 成果物（予定も含む）

- ・ 新ロゴマークの決定と広報（6月13日 リリース）
- ・ 公式リーフレットの改訂（7月5日 リリース）
- ・ 「[オープンアクセスウィーク特設ページ](#)」の開設（10月12日 リリース）
- ・ 「[JPCOAR ウェブマガジン](#)」の開始（10月23日 リリース）
- ・ JPCOAR ウェブマガジンの記事計12本公開（予定）
- ・ JPCOAR ウェブサイトの維持管理として以下を実施
 - ・ 見やすい配色及びレイアウトに改善

- ・ 他部会からのウェブサイト・SNS の掲載・更新依頼 約 60 件
- ・ 「[オープンサイエンス関連の基本ドキュメント](#)」の更新
- ・ 「[学術コミュニケーションセミナー \(JPCOAR Webinar\) まとめ](#)」の更新
- ・ ML の維持管理として以下を実施
 - ・ 新規購読者の追加 約 250 件 (2024 年 1 月 16 日現在)
 - ・ 問合せ等への対応
- ・ OA ポリシーリストの維持管理として以下を実施
 - ・ 「[オープンアクセス方針リンク集](#)」の更新
 - ・ [ROARMAP](#) の登録促進をはかる予定で企画を検討していたが、2023 年度は ROARMAP 自体の更新が停止していたため実施不可

[イベント運営作業部会]2023 年度活動報告

主査：大平 司

1. 2023 年度活動計画

(ア) 担当者向け研修、セミナー等の実施

各会員機関の機関リポジトリ担当者が機関の特性や置かれている状況に応じて必要な研鑽を積めるような研修・セミナー、コミュニティ活性化を目的とした図書館総合展等のイベントを2か月に1回程度のペースで実施する。運営事務の一部を業者委託する。

- ・ 新任担当者向け研修 (8月)
- ・ JPCOAR Webinar (2か月に1回程度開催。新任担当者研修も統一感を出すため「JPCOAR Webinar」を冠する。JPCOAR Webinar 単体企画として4・9・11月に1回ずつ、また1~3月で数回開催予定)
- ・ 図書館総合展 (10月)

2. 会合・活動

〈実施済み〉

- ・ 4月12日 第1回学術コミュニケーションセミナー (JPCOAR Webinar)
「JPCOAR 作業部会の紹介」実施
- ・ 講演内容
 - 部会紹介1 コンテンツ流通促進作業部会【5分】
瀬川結美 (東京学芸大学)
 - 部会紹介2 研究データ作業部会【5分】
田辺浩介 (物質・材料研究機構)
 - 部会紹介3 広報・普及作業部会【5分】
南雲修司 (東京学芸大学)
植山廣紀 (岡山大学)
 - 部会紹介4 イベント運営作業部会【5分】
寺升夕希 (滋賀医科大学)
 - 部会紹介5 次期 JAIRO Cloud 移行タスクフォース (JAIRO Cloud 作業部会)
【5分】
楫幸子 (安田女子大学)
 - 部会紹介6 システム開発・連携作業部会【5分】
河合将志 (国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター)
- ・ 申し込み人数：57名／参加人数：42名
- ・ 開催形態 (オンライン)・開催時期・時間帯とも概ね妥当とのアンケート結果を得ている

- ・6月1日 第1回ミーティング（オンライン実施）
 - ・活動内容：活動の体制・計画検討、作業分担確定。

- ・8月8日 第2回学術コミュニケーションセミナー（JPCOAR Webinar）
 - 「オープンアクセス新任担当者相談会」実施
 - ・講演・実施内容：
 - 前半：講習形式
 - 講義：機関リポジトリ総論【20分】
 - 杉田茂樹（京都大学附属図書館/JPCOAR 運営委員会委員長）
 - 講義：実務紹介(1)「学術コミュニケーションと機関リポジトリの基礎知識」【15分】
 - 山崎圭（法政大学図書館/イベント運営作業部会）
 - 講義：実務紹介(2)「機関リポジトリの機能と実務」【15分】
 - 安達修介（東京大学農学部・農学生命科学研究科/イベント運営作業部会）
 - 講義：実務紹介(3)「オープンアクセスと著作権」【15分】
 - 大平司（名古屋大学附属図書館/イベント運営作業部会）
 - 講義：事例紹介(1)「私たちはどういう業務をしているか：－Kernel の日常業務にまつわるエトセトラ－」【20分】
 - 有馬良一（神戸大学附属図書館/研究データ作業部会）
 - 講義：事例紹介(2)「機関リポジトリの広報について」【20分】
 - 永井一樹（兵庫教育大学附属図書館/広報・普及作業部会）
 - 後半：ブレイクアウトセッション（相談会）
 - ・申し込み人数：95名/前半参加人数：92名、後半参加人数：6名
 - ・開催形式について、妥当である、前半だけでよい、後半部分は別日程で開催してほしいなど、様々な意見をアンケート結果から得ている

- ・9月25日 第3回学術コミュニケーションセミナー（JPCOAR Webinar）
 - 「学術情報流通を取り巻く現在の状況」実施
 - ・講演・実施内容：
 - 講義：オープンサイエンス振興の政策・現況について【20分】
 - 福市遼平（文部科学省研究振興局）
 - 講義：Jxiv の現況について【20分】
 - 小川ゆい（国立研究開発法人科学技術振興機構）
 - 講義：CiNii Research の現況について【20分】
 - 脇谷史織（国立情報学研究所）
 - ・申し込み人数：215名/参加人数：164名
 - ・開催形態（オンライン）・開催時期・時間帯とも概ね妥当とアンケート結果を得た

- ・10月25日 フォーラム「JPCOAR meets JUSTICE：大 OA 時代の中を漕ぎ進む大学図書館」
 - ・パネルディスカッション形式
 - ・ハイブリッド開催（オンサイト会場：図書館総合展フォーラム 第5会場（パシフィコ横浜展示ホール2階 E26）、オンライン配信：YouTube Live）
 - ・JPCOAR もしくは JUSTICE 参加機関所属者対象
 - ・講演・実施内容：
 - OA 実現の利点と展望
 - 佐藤翔（JPCOAR 運営委員会委員・国際担当/同志社大学免許資格課程センター）
 - JPCOAR による取り組みの紹介
 - 杉田茂樹（JPCOAR 運営委員会委員長/京都大学附属図書館）
 - JUSTICE による取り組みの紹介
 - 小陳左和子（JUSTICE 運営委員会委員長/大阪大学附属図書館）
 - パネルディスカッション
 - ファシリテータ：佐藤翔
 - 進行補助：鈴木雅子（JPCOAR 運営委員会委員/神戸大学附属図書館）
 - パネリスト：杉田茂樹、小陳左和子
 - ・申し込み人数：502名（現地参加：75名、オンライン：427名）57名
 - ・現地参加者数：90名（事前申込：69名、当日受付：6名、関係者：15名）
 - ・オンライン配信視聴回数：486回
 - ・概ね有意義であり、今後もハイブリッド形式での開催を希望するとのアンケート結果を得た。

- ・2024年1月17日(水) 第4回学術コミュニケーションセミナー(JPCOAR Webinar)「IRDB-カラクリと役割：どこから・どこへ・どのように-」
 - ・講演・実施内容：
 - 講義1 IRDB の概要と内部実装【50分】
 - 井村邦博（株式会社メタ・インフォ）
 - 講義2 機関リポジトリとの連携：筑波大学・信州大学の実務から【30分】
 - 石津朋之、大石証洋（筑波大学学術情報部情報企画課リポジトリ担当）
 - 伊東洋輔（信州大学附属図書館情報システム・学術資料(雑誌)グループ情報システム担当）
 - ・申し込み人数：268名／参加人数：(未集計)
 - ・開催形態（オンライン）・開催時期・時間帯とも概ね妥当、また概ね内容に満足とのアンケート結果を得た。
 - ・配布資料の内容に誤りがあり、後日修正したものを再掲載した

〈実施予定（1/22 時点）〉

- ・2～3 月 JPCOAR Webinar
- ・実施内容・形式等を検討中

3. 成果物（予定も含む）

- ・各 JPCOAR Webinar について：配布資料／動画を公開（随時）
- ・図書館総合展企画について：JPCOAR・JUSTICE 会員機関へアーカイブ動画配信
(12/25(月)まで公開：公開終了済)

4. その他

開催時期・形式は未定だが、コンテンツ流通促進作業部会から JPCOAR Webinar の開催の打診があり、相談中である。次期 JAIRO Cloud 移行タスクフォースから打診のあったイベント開催は次年度に持ち越しとなった。

[コンテンツ流通促進作業部会]2023 年度活動報告

主査：片岡 朋子

1. 2023 年度活動計画

- (1) 【メタデータ】JPCOAR スキーマ Version 2.0 の普及活動を行うとともに、DOI ガイドラインおよびメタデータ流通ガイドラインを改訂し、カタログ情報の流通に向けて関係機関との調整を図る。
- (2) 【メタデータ】識別子・ライセンスの調査結果に基づき、学術成果の普及・利活用を促進する。
- (3) 【SCPJ】著作権ポリシーのデータメンテナンスを継続し、SCPJ の利用を推進するための方策を検討する。

2. 会合

- ・6月7日 第1回全体ミーティング（オンライン）
今年度の活動内容について意見交換を行い、全体を2チームに分けて活動することとなった。
 - ・メタデータチーム（田口<副主査>、三上、瀬川、神谷、堀野、田中、岡村、長岡、末田、古橋（～11/17）、松野、池田、鹿沼、増山、片岡）
 - ・SCPJ チーム（野村<副主査>、佐藤、末田（10/20～）、古橋（～11/17）、片岡）
- ・11月29日 第2回全体ミーティング（オンライン）
- ・2～3月頃 第3回全体ミーティング（オンライン）

3. 活動

- (1) メタデータチーム
 - ・ JPCOAR スキーマ ver2.0 に対応した「DOI 管理・メタデータ入力ガイドライン」の改訂・公開（6月9日）
 - ・ COAR の Multilingual and Non-English Content Task Force による推奨指針へのフィードバック（6月9日～6月30日）
 - ・ NII-RDC 連携規格に関する情報交換（7月20日）
 - ・ JPCOAR スキーマ ver2.0 に対応した「メタデータ流通ガイドライン」<共通編>の更新（10月24日）
 - ・ COAR の Multilingual and Non-English Content Task Force による推奨指針の解説会（11月27日実施、115名参加）、日本語への翻訳（～2023年度内）
 - ・ CiNii Dissertations/CiNii Books の CiNii Research への統合にかかるコミュニティとの連携に関する検討
 - ・ OER（Open Educational Resources）に関する情報共有
 - ・ JPCOAR スキーマガイドラインサイトの改修（2023年度内予定）

(2) SCPJ チーム

- ・ データ項目の整理およびデータメンテナンス体制の検討
- ・ 国立大学図書館協会 OA2025 チームとの意見交換 (11月13日)
 - 論文等の即時オープンアクセス施行以降のワークフローを想定し、SCPJ に求められる項目の整理、機械可読形式でのポリシー情報の収集・更新方法の検討、学協会への機械可読を前提としたポリシーひな形の提供等を検討中。

4. 成果物 (予定も含む)

- ・ IRDB データ提供機関のための DOI 管理・メタデータ入力ガイドライン : JPCOAR スキーマ ver2.0.x 編
<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/2000282>
- ・ Japan Open Science Summit 2023 セッション E2 「メタデータの系譜を探る：研究データの相互運用性の向上に向けて」 (6月23日)
「機関リポジトリのメタデータスキーマ JPCOAR スキーマの紹介」片岡 朋子
<https://doi.org/10.34477/0002000292>
- ・ 第25回図書館総合展 国立情報学研究所主催フォーラムへの参加 (10月26日)
「若手の図書館員よ海外に行こう」三上、松野、佐藤、片岡
<https://www.nii.ac.jp/event/other/libraryfair/2023/>
- ・ COAR の Multilingual and Non-English Content Task Force による推奨指針へのフィードバックおよび日本語への翻訳 (以下はフィードバック内容。非公開。日本語への翻訳は予定)
https://docs.google.com/spreadsheets/d/1lownKafCWK_Z8cBQZqzudBcHO99YoC2n2oW6ynQFP4s/edit#gid=0
- ・ JPCOAR 会員機関向けイベント「リポジトリにおける多言語・非英語コンテンツの管理のための推奨事項に関する解説会」 (11月27日)
「推奨事項の解説」三上 絢子
<https://doi.org/10.34477/0002000340>
「趣旨説明」「JPCOAR スキーマ/IRDB の推奨事項への対応状況」片岡 朋子
<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/2000341>
- ・ SPARC Japan セミナー2023「即時 OA に備えて：論文・データを「つかってもらおう」ためのライセンス再入門」 (11月28日)
「研究成果をより広く公開するためのライセンス付与について：CC ライセンス付与の経験から」講師：野村周平
https://www.nii.ac.jp/sparc/event/2023/pdf/20231128_6.pdf
- ・ JPCOAR Webinar での活動報告 (2024年2~3月予定)

[研究データ作業部会]2023 年度活動報告

主査：南山 泰之

1. 2023 年度活動計画

(1) 研究データ登録パターンの整理

- ・機関リポジトリに登録される研究データのパターンを整理する
 - システム上の制約の観点から、各機関が受け付ける依頼ルート別に扱える容量や公開可能な要件などを整理する
 - 関連して、公開条件（査読用／利用者の承認が必要など）の具体的なニーズを洗い出す

(2) 機関リポジトリのユースケース整理・活用

- ・研究データが機関リポジトリに登録されるユースケースを整理する
 - DataCite のメタデータを用いて、各機関のデータがどこのリポジトリに登録されているかを追跡調査する
 - 各リポジトリにおけるメタデータの違い、分野の特性などを分析する
 - 分析結果をもとに、登録までのシナリオを議論する

(3) RDM 教材の取り扱い

- ・RDM 教材がどのように使われるのか、ユースケースを調査する
 - 九大、阪大の事例をもとに、今後の活用方針を検討する

2. 会合・活動

- ・6月8日 第1回全体ミーティング（オンライン）
- ・7月5日 第2回全体ミーティング（オンライン）
- ・12月6日 第3回全体ミーティング（オンライン）
- ・12月12日 International Symposium on Data Science 2023 での活動発表
- ・12月15日 大学 ICT 推進協議会 2023 年度 年次大会参加
- ・2024 年 2 月頃 第 4 回全体ミーティング（オンライン）

※その他、プロジェクト別ミーティングを随時実施予定。

3. 成果物（予定も含む）

① Mikami, A. An analysis of Research Data Publishing in Japanese Research Institutions: RORID and DataCite API Case Study. Persistent Identifiers Towards Open Science in Japan (and the Asia-Pacific Region), 2024.1.10, JST Tokyo Headquarters Annex, Tokyo, Japan. Zenodo. <https://doi.org/10.5281/zenodo.10494845>

② 「機関リポジトリへの研究データ登録フロー」ヒアリング結果報告書（予定）

③ 「機関リポジトリのユースケースに関するアンケート」分析結果報告書（予定）

4. その他

[システム開発・連携作業部会]2023 年度活動報告

主査：林 正治（国立情報学研究所）

1. 2023 年度活動計画

(1) ワークフロー開発

- ・ 需要に基づくコンテンツ流通の促進とワークフローの軽減を目的に必要な調査・分析を行い、新しいワークフローの提案、必要な機能の開発協力を行う。

(2) コミュニティ・フレームワーク

- ・ JPCOAR として指標としての利用を検討する。COAR のフレームワーク見直しに貢献する。次のアンケート調査に向けての準備を進める。

(3) その他

- ・ JPCOAR におけるシステム開発とは何かを検討する。

2. 会合・活動

- ・ 8月3日 第1回作業部会
 - 副主査の決定
 - 今年度活動方針の確認

3. 成果物（予定も含む）

- ・ ワークフローをサポートするためのシステム（予定）
- ・ コミュニティ・フレームワークによる評価結果の分析（予定）
- ・ システム開発の考えかた（予定）

4. その他

[次期 JC 移行タスクフォース]2023 年度活動報告

主査：林 豊（国立情報学研究所）

1. 2023 年度活動計画

(1) 利用サポート

- ・ 次期 JAIRO Cloud への移行に伴う参加機関の利用のサポートをする。
- ・ 次期 JAIRO Cloud への移行に伴う機能・設定・操作 等に関するオンラインの情報共有機会を作る。

(2) システム関連問い合わせ対応

- ・ メーリングリスト等を通じて次期 JAIRO Cloud 移行支援を始めとする JAIRO Cloud コミュニティのサポートを行う。

2. 会合

- ・ 5月11日 第1回ミーティング（場所：オンライン）
 - オリエンテーション（自己紹介、活動計画・予算、副主査の決定）
 - 本番移行問い合わせ対応の対策
 - 基本マニュアルの改訂 ほか
- ・ 6月28日 第2回ミーティング（場所：オンライン）
 - Aグループの問い合わせ対応
 - Bグループ確認期間に向けた準備
 - ML 投稿制限問題への対応 ほか
- ・ 8月9日 第3回ミーティング（場所：オンライン）
 - Bグループの問い合わせ対応
 - Cグループ確認期間に向けた準備
 - 操作説明会の企画 ほか
- ・ 9月20日 第4回ミーティング（場所：オンライン）
 - Cグループの問い合わせ対応
 - 操作説明会の企画
 - 長期アップデート計画について
 - JPCOAR スキーマ 2.0 対応の方針検討 ほか
- ・ 12月5日 第5回ミーティング（場所：NII 会議室+オンライン）
 - 操作説明会の企画 ほか

3. 活動状況

- ・ JAIRO Cloud (WEKO3) 本番移行に伴う問い合わせ対応
 - 文科省の学術情報基盤実態調査のための統計取得に関する問い合わせが 9 月以降に目立った。

- 正しく終了せずワークフロー内に残ってしまうアクティビティの強制終了の依頼が目立った（原因調査中）。
- IRDB に関する知識が不足している質問もあったため、JPCOAR Webinar のテーマとして提案した（2024 年 1 月 15 日開催、第 4 回 JPCOAR Webinar 「IRDB-カラクリと役割：どこから・どこへ・どのように-」として実現）。
- 調査が長引いて、アイテム登録作業に支障をきたしている事例も見られる。
- ISO 639-1 の 2 桁コードが存在しない言語（空欄にするのが適切）の著者を登録した時、DOI を付与しているアイテムの場合、レコードエラーとなり、ハーベストされない。（改修要望あり）（JaLC DOI ガイドライン「同一作成者で作成者名が複数ある場合、xml:lang(言語属性)は必須。」）
- NII 側でデータ一括修正をアナウンス済みの問題や、リリースノートに記載済みの案件についての問い合わせも目立った。
- ・ JAIRO Cloud (WEKO3) 操作説明会（実施時期調整中）
 - 11 月 22 日～30 日 会員機関ウェブアンケート（操作説明会の希望について）
 - 12 月～2 月 アンケート結果報告・企画検討
 - 2 月～5 月 企画準備
- ・ JAIRO Crawler-List の年次更新（2024 年 4 月）
 - 12 月～1 月 委託業者調整、利用機関アナウンス（予告）
 - 4 月 1 日 更新作業（委託業者）

3. 成果物（予定も含む）

- ・ JAIRO Cloud (WEKO3) サポートの更新（基本マニュアルの更新、「本番移行における重要情報まとめ」「本番移行後の IRDB ハーベストについて」ページの作成）
<https://meatwiki.nii.ac.jp/confluence/display/JAIROCloudWEKO3>
- ・ JPCOAR JAIRO Cloud Community ML (B グループ用、C グループ用) の作成
- ・ 「JAIRO Cloud (WEKO3) における JPCOAR スキーマ Version 2.0 対応について」
(2023 年 10 月 18 日、JPCOAR 運営委員会資料)

4. その他

- ・ 2024 年度の課題
 - ◇ JAIRO Cloud (WEKO3) に寄せられた要望を整理する
 - ◇ 将来サービス終了予定の meatwiki(基本マニュアル、リリースノートを掲載)別サービスに移行する
- ・ TF の後継となる作業部会への参加のご協力をお願いします

[オープンアクセス推進検討タスクフォース]2023 年度活動報告

主査：杉田 茂樹

1. 2023 年度活動計画

- (1) オープンアクセスのさまざまな具現化方式（ゴールド OA 等）の現況を踏まえ、機関リポジトリが目指すべき方向性を明らかにする。会員機関との認識共有・フィードバック取得のため、ミーティングは公開のオンライン討議とする。
- (2) 必要に応じ、関連組織等と共同での討議を行う。

2. 会合・活動

- ・ 6月27日 第1回ミーティング
課題認識に関する各委員からのライトニングトーク
- ・ 7月11日 第2回ミーティング
前回振り返り、論点抽出
- ・ 7月28日 第3回ミーティング（国大図協資料委員会オープンサイエンス小委員会（以下、「OS 小委」という。）との合同勉強会）
主要論点に関連した海外文献の読み合わせ
- ・ 進行中 BOAI 20th Anniversary Recommendations 日本語版作成中
（国大図協 OS 小委、JUSTICE との共同作業）
- ・ 時期未定 ・ 数回のミーティング開催
・ 図書館総合展フォーラムへの話題提供

3. 成果物（予定も含む）

- ・ どのような形のアウトプットとするか検討中

4. その他

- ・ メンバー追加（案）
 - 河合将志（システム開発・連携作業部会／NII）
 - 野中雄司（広報・普及作業部会／富山大）
- ・ 現在の主要な論点
 - ダイヤモンド OA、機関リポジトリでのオリジナル出版
 - ゴールド OA の伸長、転換契約とその出口戦略
 - 研究評価との関係
- ・ Global Summit on Diamond Open Access (Oct. 25-26,2023) 参加

[JAIRO Cloud 共同運営検討タスクフォース]2023 年度活動報告

主査：高橋 菜奈子

1. 2023 年度活動計画

オープンアクセスリポジトリ推進協会と国立情報学研究所による JAIRO Cloud の共同運営における役割の明確化について検討を行い、JAIRO Cloud の安定的な品質管理及び運営に資することを目的とする

- 設置期間：2023 年 12 月 8 日～2024 年 3 月 31 日まで

2. 会合・活動

- 12 月 25 日第 1 回ミーティング（オンライン）
 - 課題認識の共有とゴールの設定
- 1 月 15 日第 2 回ミーティング（オンライン）
 - JPCOAR・NII の反省点まとめ
 - JAIRO Cloud のありかた検討
 - JAIRO Cloud 作業部会のありかた検討
- 1 月 23 日第 3 回ミーティング（オンライン）
 - JAIRO Cloud システムの検証
 - 共同運営のありかた検討
- 2 月 7 日 第 4 回ミーティング（オンライン）（予定）
- 2 月 27 日 第 5 回ミーティング（オンライン）（予定）
 - JAIRO Cloud 分科会・作業部会案の検討
 - 総会への報告内容の検討
 - 今後の進め方の検討

3. 成果物（予定も含む）

本 TF 検討結果（JC 共同運営のありかた）の総会報告
JAIRO Cloud 分科会・作業部会設置（案）

4. その他

2023年度 JPCOAR作業部会員名簿

広報・普及作業部会

	氏名	部署名・職名	兼任
主査	野中 雄司	富山大学研究推進部学術コンテンツ課長	運営委員会委員
副主査	熊崎 由衣	千葉大学附属図書館 学術コンテンツ課 学術コンテンツグループリーダー	
副主査	南雲 修司	東京学芸大学 総務部学術情報課アーカイブ室アーカイブ係長	
	伊藤 文	富山大学 研究推進部学術コンテンツ課係長	
	安田 翔子	富山大学 研究推進部学術コンテンツ課主任	
	永井 一樹	兵庫教育大学 教育研究支援部研究推進課図書館チーム 主査	
	山下 真人	兵庫教育大学 教育研究支援部研究推進課図書館チーム 主任	
	植山 廣紀	岡山大学附属図書館 情報管理課資料受入グループ図書職員	
	井上 尚紀	広島大学 学術・社会連携室図書館部図書学術情報普及グループ 主査	
	金子 尚登	広島大学 学術・社会連携室図書館部図書学術情報普及グループ グループリーダー	
	大澤 紗都	国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課係員(研究データ基盤整備チーム)	次期JAIRO Cloud移行タスクフォース

イベント運営作業部会

	氏名	部署名・職名	兼任
主査	大平 司	名古屋大学 教学事務部門附属図書館事務部東山地区図書課東地区図書統括グループ主任	
副主査	佐藤 亮太	東京工業大学 研究推進部情報図書館課電子図書館グループ スタッフ	
副主査	山崎 圭	法政大学 図書館事務部 小金井事務課	
	安達 修介	東京大学 農学部・農学生命科学研究科総務課図書チーム一般職員	オープンアクセス推進検討タスクフォース
	寺升 夕希	滋賀医科大学 情報課学術企画係 専門職員	次期JAIRO Cloud移行タスクフォース
	加川 みどり	神戸松蔭女子学院大学図書館事務課長	運営委員会委員 次期JAIRO Cloud移行タスクフォース

コンテンツ流通促進作業部会

	氏名	部署名・職名	兼任
主査	片岡 朋子	お茶の水女子大学 図書・情報課係長(利用支援担当)	
副主査	田口 忠祐	東京大学 情報システム部情報基盤課学術情報チーム係長	
副主査	野村 周平	横浜国立大学 研究・学術情報部図書館情報課図書管理係員	
	三上 絢子	北海道大学附属図書館 管理課図書受入・目録担当	研究データ作業部会
	瀬川 結美	東京学芸大学 総務部学術情報課 副課長(学術情報担当)(兼)アーカイブ室長	
	岡村 菜々子	国立大学法人九州大学 附属図書館事務部eリソース課リポジトリ係 係員	
	神谷 優子	慶應義塾大学 メディアセンター本部 リソースマネジメント担当	
	堀野 和子	人間文化研究機構国文学研究資料館 管理部学術情報課調査・管理係長(併)データ標準化推進係長	

田中 梓	人間文化研究機構国文学研究資料館 管理部学術情報課データ標準化推進係 専門職員	
長岡 千香子	国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター 特任助教	
末田 真樹子	国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課係長(研究データ基盤整備チーム)	次期JAIRO Cloud移行タスクフォース
佐藤 知生	国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課係員(研究データ基盤整備チーム)	研究データ作業部会
松野 涉	国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課係員(研究データ基盤整備チーム)	研究データ作業部会
池田 貴儀	国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課 研究データ基盤整備チーム 特任技術専門員	
鹿沼 智美	国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課 研究データ基盤整備チーム 特任技術専門員	
増山 廣美	国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課 研究データ基盤整備チーム 学術支援技術専門員	

研究データ作業部会

	氏名	部署名・職名	兼任
主査	南山 泰之	国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター 特任助教	
	三上 絢子	北海道大学附属図書館 管理課図書受入・目録担当	コンテンツ流通促進作業部会
	小林 裕太	千葉大学附属図書館 利用支援企画課利用支援企画グループ	
	石山 夕記	一橋大学 学術・研究推進部学術情報課電子情報係係員	
	岩井 雅史	信州大学附属図書館 副課長／情報システム・学術資料(雑誌)グループリーダー	
	田中 幸恵	名古屋大学 教学事務部門附属図書館事務部 東山地区図書課 東地区図書統括グループ 係長	
	西森 哲也	大阪大学附属図書館 学術情報整備課課長補佐	
	甲斐 尚人	大阪大学附属図書館 研究開発室 助教	
	有馬 良一	神戸大学附属図書館 情報管理課電子情報グループ事務員	
	田辺 浩介	国立研究開発法人 物質・材料研究機構 技術開発・共用部門 材料データプラットフォーム データ基盤ユニット 主幹エンジニア	
	朝岡 誠	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター 特任助教	
	古川 雅子	国立情報学研究所 情報社会相関研究系 助教 / オープンサイエンス基盤研究センター	
	佐藤 知生	国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課係員(研究データ基盤整備チーム)	コンテンツ流通促進作業部会
	松野 涉	国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課係員(研究データ基盤整備チーム)	コンテンツ流通促進作業部会

システム開発・連携作業部会

	氏名	部署名・職名	兼任
主査	林 正治	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター特任助教	運営委員会委員 次期JAIRO Cloud移行タスクフォース オープンアクセス推進検討タスク フォース
副主査	五十嵐 裕一	東京大学附属図書館 附属図書館事務部柏地区図書課資料管理チーム係長	
	河合 将志	国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター 特任研究員	
	江川 和子	国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター特任研究員	

次期JAIRO Cloud移行タスクフォース

	氏名	部署名・職名	兼任
主査	林 豊	国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課 副課長心得	
副主査	寺升 タ希	滋賀医科大学 情報課学術企画係 専門職員	イベント運営作業部会
副主査	加川 みどり	神戸松蔭女子学院大学図書館事務課長	運営委員会委員 イベント運営作業部会
	石津 朋之	筑波大学 学術情報部情報企画課リポジトリ係長	
	藤原 幸生	新潟大学 学術情報部 学術情報管理課 情報基盤係(係員)	
	伊東 洋輔	信州大学附属図書館 情報システム・学術資料(雑誌)グループ情報システム担当主任	
	大谷 周平	琉球大学附属図書館 情報管理課情報支援係長	
	楯 幸子	安田女子大学図書館 図書課 専門職員	
	上原 藤子	沖縄科学技術大学院大学 図書館マネージャー	
	林 正治	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター特任助教	運営委員会委員 システム開発・連携作業部会 オープンアクセス推進検討タスク フォース
	住吉 誠	国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター特任技術専門員	
	末田 真樹子	国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課係長(研究データ基盤整備チーム)	コンテンツ流通促進作業部会
	大澤 紗都	国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課係員(研究データ基盤整備チーム)	広報・普及作業部会
	丸山 寛	国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課 研究データ基盤整備チーム 学術支援技術専門員	

オープンアクセス推進検討タスクフォース

	氏名	部署名・職名	兼任
主査	杉田 茂樹	京都大学附属図書館事務部長	運営委員会委員長
副主査	高橋 菜奈子	東京学芸大学総務部学術情報課長	運営委員会委員
副主査	鈴木 雅子	神戸大学附属図書館事務部長	運営委員会委員
	安達 修介	東京大学 農学部・農学生命科学研究科総務課図書チーム一般職員	イベント運営作業部会

	佐藤 翔	同志社大学免許資格課程センター 准教授	運営委員会委員
	林 正治	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター特任助教	運営委員会委員 システム開発・連携作業部会 次期JAIRO Cloud移行タスクフォース
	前田 隼	国立情報学研究所 学術基盤推進部図書館連携・協力室係長	JPCOAR事務局員

JAIRO Cloud共同運営検討タスクフォース

	氏名	部署名・職名	兼任
主査	高橋 菜奈子	東京学芸大学総務部学術情報課長	運営委員会委員 オープンアクセス推進検討タスク フォース
	熊淵 智行	筑波大学学術情報部長	
	大山 努	東京大学附属図書館事務部長	
	野中 雄司	富山大学研究推進部学術コンテンツ課長	運営委員会委員 広報・普及作業部会
	杉田 茂樹	京都大学附属図書館事務部長	運営委員会委員長
	鈴木 雅子	神戸大学附属図書館事務部長	運営委員会委員
	折戸 晶子	明治大学図書館総務事務長	運営委員会委員
	加川 みどり	神戸松蔭女子学院大学図書館事務課長	運営委員会委員 イベント運営作業部会 次期JAIRO Cloud移行タスクフォース
	林 正治	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター特任助教	運営委員会委員 システム開発・連携作業部会 オープンアクセス推進検討タスク フォース
	吉田 幸苗	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長	運営委員会委員
	林 豊	国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課 副課長心得	次期JAIRO Cloud移行タスクフォース

2023年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）決算（経過報告）

<収入の部>

科目	2023年度 当初予算額(A)	2023年度 決算見込額(B)	増▲減 (B)-(A)	備考
1. 会費	21,814,000	22,490,000	676,000	2023年度会員機関数: 748(1月現在) 区分A: 667 x 2.6万円 = 17,342千円 区分B: 45 x 5.2万円 = 2,340千円 区分C: 36 x 7.8万円 = 2,808千円
計	21,814,000	22,490,000	676,000	

<支出の部>

科目	2023年度 当初予算額(C)	2023年度 決算見込額(D)	増▲減 (D)-(C)	備考
1. 事務局経費	15,299,000	15,359,353	▲ 60,353	
(1) 事務協力費	9,500,000	9,378,071	121,929	
事務協力費	5,000,000	5,000,000	0	2023年度出向元への事務協力費
事務補佐員人件費	4,500,000	4,378,071	121,929	事務補佐員
(2) 事務局運営費	5,799,000	5,981,282	▲ 182,282	窓口委託経費等
2. 運営委員会等経費	40,000	0	40,000	
活動費	30,000	0	30,000	
監事監査費	10,000	0	10,000	オンラインのため旅費支出なし
3. 総会経費	410,000	1,174,142	▲ 764,142	
総会会場費	0	0	0	オンライン会議想定
総会運営費	400,000	407,000	▲ 7,000	オンライン会議運営支援
総会旅費	10,000	35,740	▲ 25,740	委員長旅費
総会ミーティング会場費	0	137,440	▲ 137,440	中会議室
総会ミーティング出張費	0	593,962	▲ 593,962	運営委員・作業部会員旅費
4. 図書館総合展出展	450,000	484,885	▲ 34,885	オンライン会議運営支援
5. 部会活動費	3,400,000	2,526,501	873,499	
広報・普及作業部会	450,000	285,627	164,373	
イベント運営作業部会	2,000,000	1,320,640	679,360	
コンテンツ流通促進作業部会	100,000	502,744	▲ 402,744	
研究データ作業部会	50,000	134,950	▲ 84,950	
JAIRO Cloud作業部会	0	0	0	
システム開発・連携作業部会	0	0	0	
オープンアクセス推進検討TF	0	33,230	▲ 33,230	
次期JAIRO Cloud移行TF	800,000	249,310	550,690	
6. 国際連携活動費	2,215,000	2,897,519	▲ 682,519	
海外派遣旅費	1,000,000	1,164,774	▲ 164,774	メキシコ、イギリス
COAR会費	1,215,000	1,226,745	▲ 11,745	2023年COAR年会費
出張報告会	0	506,000	▲ 506,000	2回開催
計	21,814,000	22,442,400	▲ 628,400	

※支出のうち不足額については、国立情報学研究所予算からの支援により支出する。

JAIRO Cloud利用料金

<収入の部>

科目	2023年度 当初予算額(E)	2023年度 決算見込額(F)	増▲減 (F)-(E)	備考
JAIRO Cloud利用料金	78,496,000	80,696,000	2,200,000	
計	78,496,000	80,696,000	2,200,000	

<支出の部>

科目	2023年度 当初予算額(G)	2023年度 決算見込額(H)	増▲減 (H)-(G)	備考
JAIRO Cloud運用費	78,496,000	80,696,000	2,200,000	
計	78,496,000	80,696,000	2,200,000	

WEKO3移行の経緯と今後

2024-03-13 JPCOAR総会

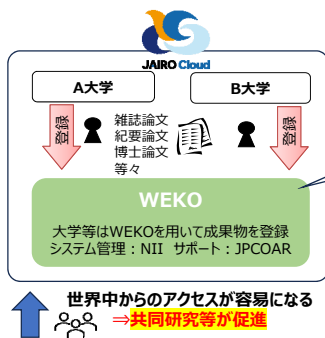
国立情報学研究所

WEKO3移行の経緯

- 【1】 JAIRO CloudとWEKOについて
- 【2】 WEKO2からWEKO3の移行について
 - (1) スケジュール
 - (2) 延期理由について
 - (3) 開発プロセスの改善

【1】 JAIRO Cloud と WEKOについて NII

- JAIRO Cloud (ジャイロクラウド) は、大学等に機関リポジトリ構築環境を提供するクラウドを使った研究成果の公開サービス。
- WEKO(ウェコ) は、 JAIRO Cloudにおける機関リポジトリのシステム・環境を提供するソフトウェア。



- WEKOの役割**
- ・各大学が持っている成果物の登録・検索 等
 - ・成果物の著者・言語・タイトル等の編集
 - ・各大学のリポジトリHPの画面デザイン編集
- 【大学等のメリット】**
- ・独自のシステムを構築する必要がない
 - ・システムの運営・保守を行う必要がない

WEKO2からWEKO3への移行の経緯

- 2018年に現行のWEKO 2 のベースシステムのサービスが終了し、セキュリティ上の懸念が発生。
- オープンサイエンス等の世界的潮流に沿って、研究データの公開の必要性が高まっているところ、WEKO 2 は大容量の研究データ公開ができない。
- 高度なセキュリティ下での研究データ管理と、大容量の研究データ公開のため、抜本的なシステム改善が必要となった。(WEKO 2 → WEKO 3 へ移行)

【2】 WEKO 2 からWEKO 3 への移行について NII

(1) スケジュール

	2020 (R2) 年度		2021 (R3) 年度		2022 (R4) 年度		2023 (R5) 年度	
	4月~9月	10月~3月	4月~9月	10月~3月	4月~9月	10月~3月	4月~9月	10月~3月
	4 5 6 7 8 9	1 1 1 1 2 3	4 5 6 7 8 9	1 1 1 1 2 3	4 5 6 7 8 9	1 1 1 1 2 3	4 5 6 7 8 9	1 1 1 1 2 3
当初の移行時期		移行作業						
1回目の延期		2020年12月 当時の全機関(S94)の テスト結果に不備があり 延期決定						
1回目延期後の 移行時期		9機関が 先行移行		移行作業				
2回目の延期		移行 時期 公表		2021年7月 アップデートした先行 移行機能に不具合 があり延期決定				
2回目延期後の 移行時期								移行作業

- 移行作業には、設計⇒動作確認⇒検証⇒移行決定のプロセスがあり、業者、NII、外部有識者等の確認を経た上で実施した。
- 2020年度の1回目の移行延期の際は、設計上の不具合（移行ツールの不具合等）が発見された。2021年度の2回目の移行の際は、1回目とは異なる不具合（論文等のデータ検索結果提示の不具合等）が発見された。
- 2回目の延期後は、委託業者による設計と対応の問題（バグが多く、バグ解消の対応も遅い）があると判断し、①問題のあった設計・開発委託業者を変更、並行して品質向上のため、②コンサル業者の導入、③実際に行われる業務において想定される1,300以上のユーザー動作を試行する総合テスト（複数回実施）等を行った。その上で、関係機関に移行スケジュール等を周知し、対象機関を4グループに分けて移行作業（2023年5月~10月）を実施した。

(2) 延期理由について

NII

延期①理由

- 移行前に、2020年6月25日（木）から7月31日（金）にかけて全機関を対象にしたユーザテストを実施。その結果、利用機関からの不具合報告を含む問合せが多発。移行延期を決定し、全機関を対象に、テスト環境を本番に合わせた形で再度のユーザテストを実施。（2020年10月27日（火）から11月13日（金））その結果、設計上の不具合（移行ツールの不具合等）が発見され、修正を実施。さらに実際の利用環境内での検証も必要との判断から先行移行機関による実証実験を計画。2021年3月に9機関の移行を完了。先行移行9機関による実検証を開始した。

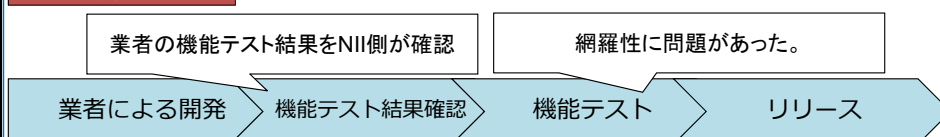
延期②理由

- 2021年3月からの先行移行機関による実検証から発生した不具合報告等に修正対応を実施。移行開始前の2021年6月にアップデートを実施。その後、2021年7月、先行移行機関からの報告をきっかけに、インデックス移動によるアイテムとインデックスの紐づけが消失するバグ（見かけ上、アイテムが消えたように見える）が発覚。バグ自体は即時に修正したものの、論文等のデータ検索結果の提示に不具合がおきたことを重大視し、移行の凍結を決定した。

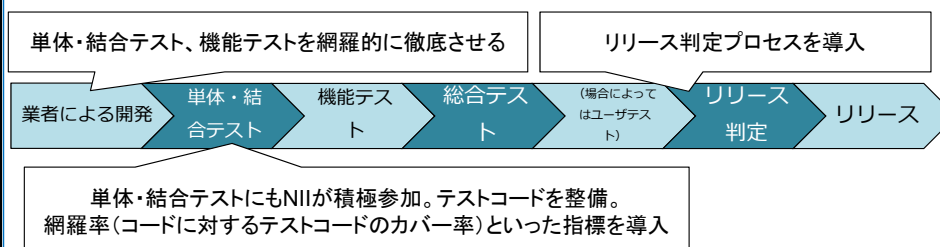
(3) 開発プロセスの改善

NII

改善前



改善後(コンサル業者導入)



WEKO3の今後

【1】問題修正

- ・アイテム登録機能、アイテムインポート機能を中心に

【2】機能改善

- (1) JPCOARスキーマver.2.0対応
- (2) 研究データ管理システム（GakuNin RDM）とのシステム連携
- (3) OAアシスト機能との連携

【3】OA加速化事業に係りNIIが考えていること

【1】問題修正

【1】問題修正（2024年夏頃アップデート予定、145件中82件）

- ・アイテム登録機能、アイテムインポート機能を中心に
- ・2024年度中に行う2回目のアップデート（時期未定、残63件）により、現在把握している問題は全て解消する予定

1回目のアップデートで修正する件数（カテゴリ別）

カテゴリ	件数
【アイテム登録】	15
【その他】	9
【アイテムタイプ】	9
【アイテム詳細】	9
【アイテムインポート】	7
【アイテム一覧】	6
【検索】	6
【統計/ランキング】	5
【著者DB】	4
【インデックス】	4
【OAI-PMH】	3
【サイトデザイン】	2
【認証】	1
【試験機能】	1
【エクスポート】	1
合計	82

代表的な修正内容

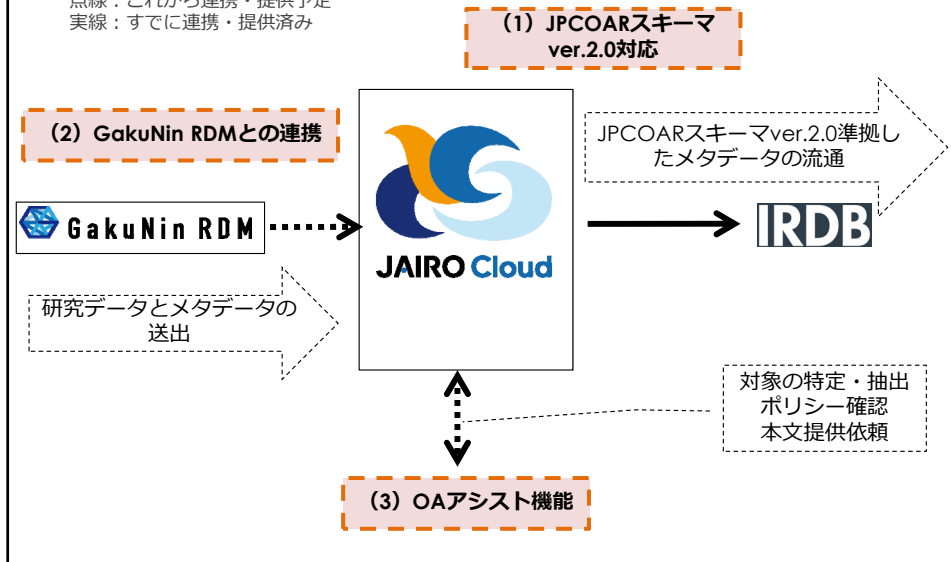
- 【アイテム登録】
 - ・ CNRIハンドル付与時のエラーによりCNRIハンドルが付与されない問題を修正
- 【アイテムタイプ】
 - ・ 同一プロパティを複数利用している場合、表示オプションが上書きされてしまう問題を修正
- 【アイテム詳細】
 - ・ Cite as で英語タイトルしか持たないアイテムのタイトルが表示されない問題を修正
- 【アイテムインポート】
 - ・ 一括登録時にファイルサイズを補完する機能を追加
- 【博論】
 - ・ 博論に関連する修正（DOI付与済みアイテムの資源タイプ変更）
- 【アクティビティ】
 - ・ アクティビティの残存に関連する修正

【2】機能改善の全体像

NII

【2】機能改善（全体像）

点線：これから連携・提供予定
実線：すでに連携・提供済み



【2】機能改善 その1

NII

（1）JPCOAR スキーマ ver. 1.0.2→ver. 2.0へ

・2024年夏頃のアップデートで対応予定

<期待されること>

JPCOARスキーマver. 2.0に準拠したメタデータが作成できることで、研究データやデジタルアーカイブの公開・流通・利活用が促進される

※JPCOARスキーマ ver. 2.0は高度な研究データ管理やデジタルアーカイブへの対応を目的として策定された（2022年12月）

- 片岡朋子「JPCOARスキーマ改訂の背景と概要」doi:10.34477/0002000251
- 中竹聖也「JPCOARスキーマ2.0の特徴の紹介」doi:10.34477/0002000252

(2) 研究データ管理システム (GakuNin RDM) とのシステム連携

- ・ 2024年度夏以降に一部の機関による先行利用を予定

<期待されること>

1. GakuNin RDMのメインターゲットである研究者から研究データとメタデータが提供され、公開にむけた業務の効率化が可能になる
2. それにより、公的資金による研究データの公開が促進される

(3) OAアシスト機能との連携

- ・ 2024年度夏以降に一部の機関による先行利用を予定

<期待されること>

1. リポジトリにコンテンツを登録・公開するためのワークフローの省力化
2. 2025年度即時オープンアクセスの義務化における助成論文の特定がより容易になる

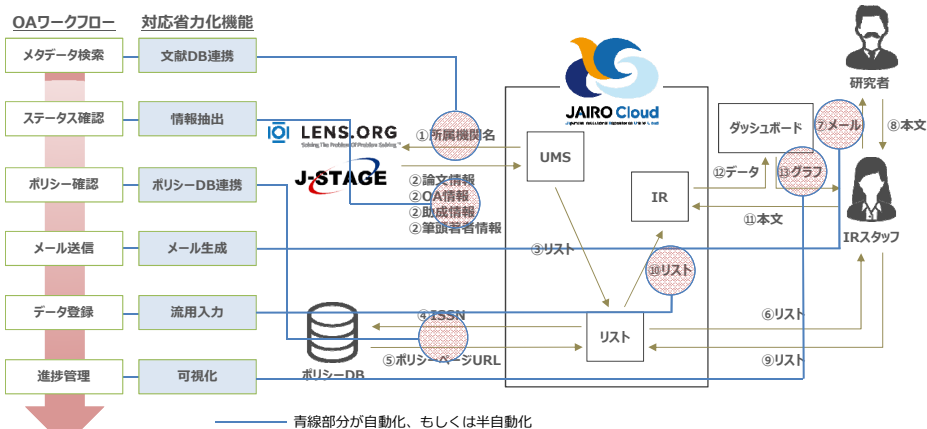
- 統合イノベーション戦略推進会議、学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針
- 「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」（統合イノベーション戦略推進会議令和6年2月16日決定）の実施にあたっての具体的方策

※本機能は、リポジトリ業務を補助する機能として、JPCOARシステム開発・連携作業部会と共同で開発しているものです。

参考：OAアシスト機能の概要

NII

- IRによるOAのうちの**図書館主導のOAは効果大**
- 多数のタスクから構成される図書館主導の**OAワークフローの実践は負担大**
- 各タスクに対応した省力化機能を包含する**OAアシスト機能の利用により実践可能**



13

【3】OA加速化事業に係りNIIが考えていること

NII

NII研究データクラウドをハブとする OA加速化基盤の整備

研究成果の 公平な普及を支援する機能	研究成果の 再現性と 信頼性の実現	即時OA活動に インセンティブ を与える機能	即時OAを支える 安全・高信頼の 認証機能
<ul style="list-style-type: none"> 即時OAに係る作業負担を低減する機能 即時OAにおける公平な普及を補完する機能 	<ul style="list-style-type: none"> 研究成果の信頼性を向上させる情報を付加 再現性を高める論文・根拠データ登録を支援 信頼ある研究成果の公開を支援 	<ul style="list-style-type: none"> 即時OA活動にインセンティブを与える機関ダッシュボード機能 即時OA活動の国際比較を可能にする日本版オープンサイエンスモニタの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 即時OAにおけるセルフアーカイブを安全かつ高信頼に実現する認証機能の普及を促進

JAIRO Cloud 共同運営検討タスクフォース 活動報告

JPCOAR総会 2024年3月13日

JPCOAR運営委員TF主査 高橋菜奈子

JAIRO Cloud(JC)共同運営検討タスク フォース(TF)活動報告

<目的>オープンアクセスリポジトリ推進協会と国立情報学研究所によるJCの共同運営における役割の明確化について検討を行い、JCの安定的な品質管理及び運営に資することを目的とする

<設置期間>2024年3月31日まで

<活動実施内容>

- ・12月25日 第1回TF
 - ・課題認識の共有とゴールの設定
- ・1月15日 第2回TF
 - ・反省点のまとめ
 - ・JCのありかた検討
 - ・JC作業部会のありかた検討
 - ・JC作業部会案
- ・1月23日 第3回TF
 - ・システムの検証
 - ・共同のありかた検討
- ・2月1日 運営委員会
 - ・新しい共同の形について意見交換
- ・2月7日 第4回TF
 - ・組織について検討
 - ・共同のありかたの検討
- ・2月27日 第5回TF
 - ・運営委員会への報告最終案、参加機関への周知内容の確認

メンバー	氏名	部署名・職名
主査	高橋 菜奈子	東京学芸大学総務部学術情報課長
	熊淵 智行	筑波大学学術情報部長
	大山 努	東京大学附属図書館事務部長
	野中 雄司	富山大学研究推進部学術コンテンツ課長
	杉田 茂樹	京都大学附属図書館事務部長 (JPCOAR運営委員長)
	鈴木 雅子	神戸大学附属図書館事務部長
	折戸 晶子	明治大学図書館総務事務長
	加川 みどり	神戸松蔭女子学院大学図書館事務課長
	林 正治	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター特任助教
	竹谷 喜美江	国立情報学研究所学術基盤推進部次長
	吉田 幸苗	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長
	林 豊	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 副課長心得
	陪席	石津 朋之
真中 孝行		筑波大学学術情報部情報企画課主幹 (整備担当)
田口 忠祐		東京大学情報システム部情報基盤課学術情報チーム係長
前田 朗		東京大学情報システム部情報基盤課学術情報チームチームリーダー・上席係長

TFからの報告と提案

現状の課題整理

- JCの移行遅れ・不具合対応の遅れや運用支援の不足による利用機関の不満
- JPCOARとNIIの「共同運営」の内容が不明確
 - 意思決定の方法
 - JPCOARとNIIの作業分担・責任の範囲(共同運営体制図の改訂)
- 利用機関の多様化
 - 「共同運営」の理念が共通理解を得られていない
 - サポートの必要性の増大とそのため的人的資源の不足

課題への対応策

- JCの移行遅れ・不具合対応の遅れや運用支援の不足による利用機関の不満
 - ⇒NIIから利用機関に対する現況及び今後の計画への十分な説明の徹底
- JPCOARとNIIの「共同運営」の内容が不明確
 - 意思決定の方法 ⇒JC共同運営本部の設置(提案①)
 - JPCOARとNIIの作業分担・責任の範囲 ⇒共同運営新体制図を策定(提案②)
- 利用機関の多様化
 - 「共同運営」の理念が共通理解を得られていない
 - ⇒総会での周知・共有
 - サポートの必要性の増大とそのため的人的資源の不足
 - ⇒次年度以降にJC共同運営本部で検討を行う

TFからの提案

提案①

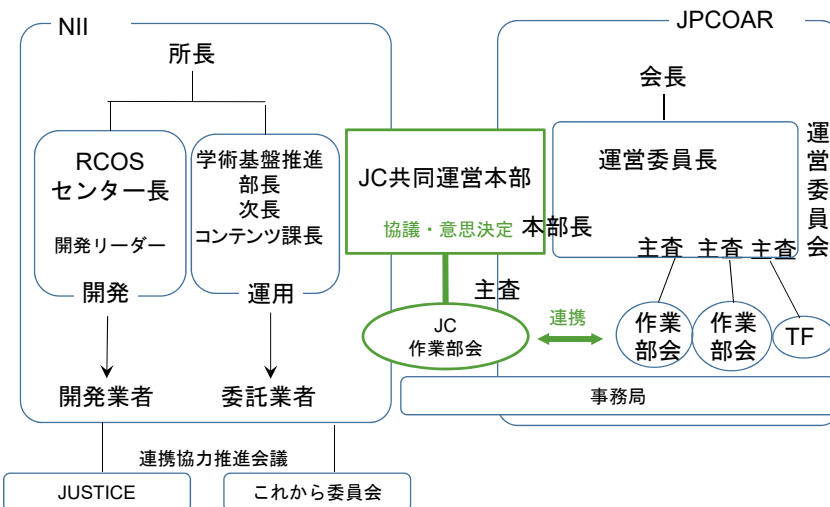
- JC共同運営本部の設置
 - JC作業部会は共同運営本部の下に設置

提案②

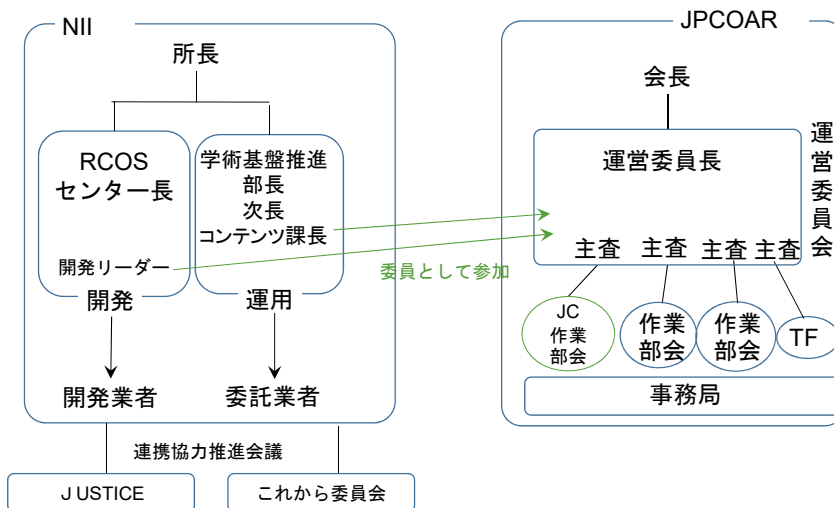
- 共同運営新体制図の策定
 - 設立前の構想であった「JC共同運営体制図」を改訂

提案①

JC共同運営本部・作業部会の設置



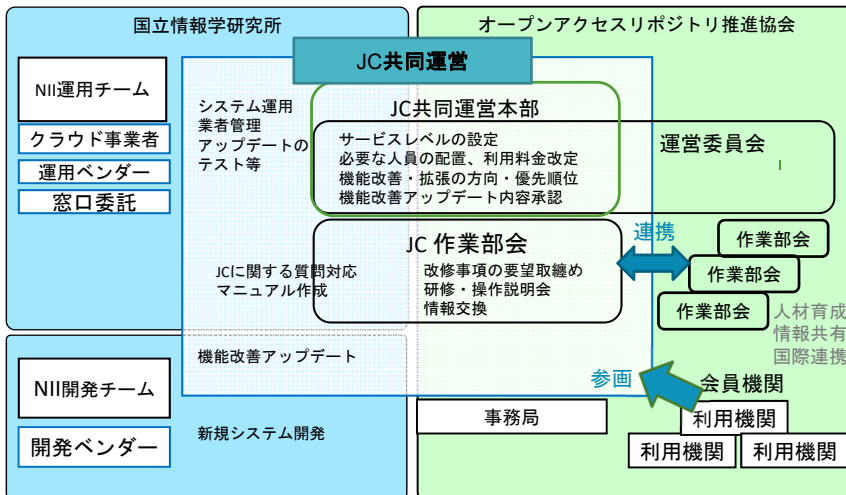
【参考①】NIIとJPCOARの組織の現状



JC共同運営本部とJC作業部会

- JC共同運営本部
 - 設置目的: JC利用機関間の相互支援を強化し、NIIとの間で円滑に共同運営することを目的に設置
 - 構成員: JC利用機関の運営委員、運営委員長、NIIの運営委員、その他
 - 検討する案件:
 - JCにかかわる大方針
 - サービスレベルの設定
 - 必要な人員の配置、利用料金改定など、運営に関わる課題
 - 機能改善・拡張の方向性(優先順位)
 - 機能改善アップデートの内容承認
- JC作業部会
 - 設置目的: JC共同運営本部のもと、具体的作業の実務を行う
 - 構成員: 若手・中堅の職員、他の作業部会からのリエゾン
 - 実施する案件:
 - 要望(機能改善等)とりまとめ
 - 研修・操作説明会
 - 情報交換(コミュニティでの相互支援)

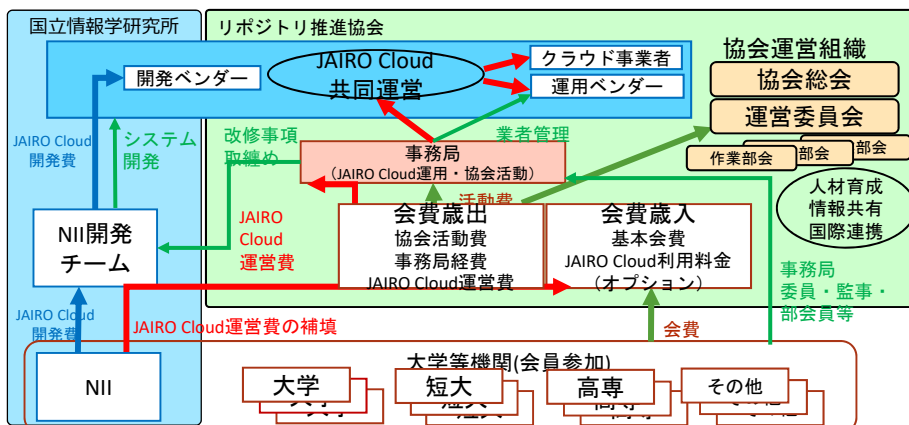
提案② JC共同運営新体制図（案）



【参考②:現状】 設立前の構想 JC共同運営体制図

参考資料: 第11回連携協力推進会議(2016.2.23開催)

資料No. 4-8



今後の進め方

時期	内容
3月1日～	総会資料配布
3月13日	総会 ・ TFからの提案事項①②を報告 ・ 利用機関から提案に対する質疑応答
3月中旬	運営委員会にTF提案を報告
4～5月	運営委員会より利用機関への意見招集・意見交換
5月	運営委員会にて審議 ・ 規程改正を審議
5月～6月	臨時総会(メール審議) ・ 規程改正をML審議
6月～	JC共同運営本部の発足・JC作業部会の業務見直し

【JC共同運営の現状】

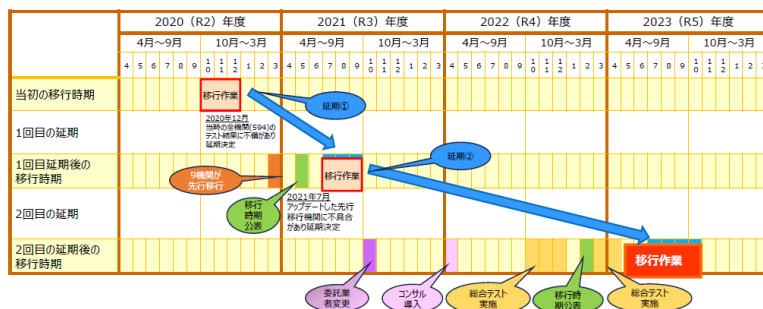
NII、JPCOARのそれぞれに 反省すべき点

NII、JPCOARのそれぞれに反省すべき点

NIIの反省点:

移行時の不具合と検証強化による遅れ

WEKO (ウェコ) 2からWEKO 3への移行の経緯 NII



○移行作業には、設計⇒動作確認⇒検証⇒移行決定のプロセスがあり、業者、NII、外部有識者等の確認を経た上で実施した。
 ○2020年度の1回目の移行延期の際は、設計上の不具合（移行ツールの不具合等）が発見された。2021年度の2回目の移行の際は、1回目とは異なる不具合（論文等のデータ検索結果提示の不具合等）が発見された。
 ○2回目の延期後は、委託業者による設計と対応に問題（バグが多く、バグ解消の対応も遅い）があると判断し、①問題のあった設計・開発委託業者を変更、並行して品質向上のため、②コンサル業者の導入、③実際に行われる業務において想定される1,300以上のユーザ動作を試行する総合テスト（複数回実施）等を行った。その上で、関係機関に移行スケジュール等を周知し、対象機関を4グループに分けて移行作業（2023年5月～10月）を実施した。

NII開発担当(オープンサイエンス基盤研究センター<RCOS>)

- JPCOARや利用機関とのコミュニケーションが不足していた
- 前システム(WEKO2)からどの機能を継承するか/しないか、JPCOARとの事前合意が不十分だった
- 前システム(WEKO2)の機能をほぼ全て継承しようとしたことに加え、WEKO3ではJPCOARスキーマへの対応やワークフロー機能の自由度を担保するために、より複雑なシステムになり開発の難易度が増した
- 開発業者が作成したシステム設計等に対する評価において、利用機関(システム運用)の観点で不足していた
- システムの要件定義が不十分だったこともあり、納品されたシステムの品質に想定外の疑義が生じ、その検証に多くの時間を要した。そのため、本番移行前に利用機関から指摘された不具合に対して十分な対応ができず、JPCOARによるサポートの負荷が増大するとともに、利用機関が不満を抱えることとなった

NII、JPCOARのそれぞれに反省すべき点

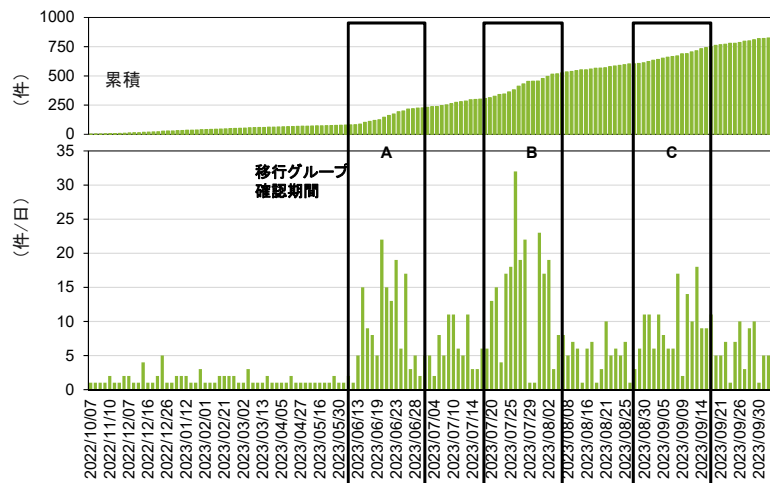
NII運用担当(学術コンテンツ課)

- 移行に際して、利用機関への説明(移行説明会の開催等)が不足していた
- NIIからJPCOARへの業務移管の際に、運用担当、開発担当、事務局の役割や担当範囲について、現実的・持続可能な整理をできなかった
- WEKO3の各開発案件における初期設計フェーズへの関与(仕様検討等)が不足していた

NII、JPCOARのそれぞれに反省すべき点

JPCOARの反省点:

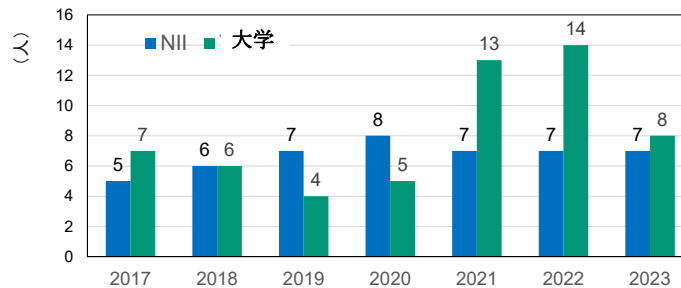
問い合わせ窓口での対応件数



JPCOARの反省点:

JCのサポート体制

- TFメンバーは、参加機関からの作業部会員（本務の傍らのボランティア）



・JCの運用に関わっている、NII側の人数、作業部会の人数の経年グラフ

NII : WEKO2担当・WEKO3担当・RCOSの担当者
大学 : JPCOAR 次期JC移行タスクフォースの大学からの参加者数

JPCOAR(運営委員会・作業部会)

- JCというサービスのコンセプトや、利用機関の規模や要望によって異なる対応（サービスを分けるなど）を検討するなどの、JPCOARとしての大方針の検討が不十分であった
- 中小規模機関から大規模機関まで利用機関と共に議論する仕組みが十分ではなかった
- 利用機関の要望に対する処理や整理のプロセスが整備されておらず、意思決定のありかたが不明確であった
- 次期JC移行TFの責任範囲が明確でないため、TFが検討するには大きすぎる決断を求められていた
- ユーザサポートの責任がNIIではなくJPCOARの管轄下にあるという意識共有がなされていなかった
- 利用機関の問い合わせに対する返信において、利用機関の視点にたった内容が不足していた面があった
- 利用機関からの大量の問い合わせに十分に対応できるだけの体制を用意できていなかった

NII、JPCOARのそれぞれに反省すべき点

JPCOAR(利用機関)

- 「NIIが提供しているシステムにぶら下がっている」という意識となってしまう、JCがNIIとJPCOARとの共同運営であることが十分に共有されていなかった
- WEKOの複雑化は、これまでに取り入れた利用機関の要望の蓄積や多様な利用機関に対応するための自由度の高さも要因であることを認識できていなかった
- JCシステムの問題から生じる疑問と、質問者の業務知識やITスキルの問題から生じる疑問を切り分けられないまま、サポート窓口に問い合わせを集中させてしまった

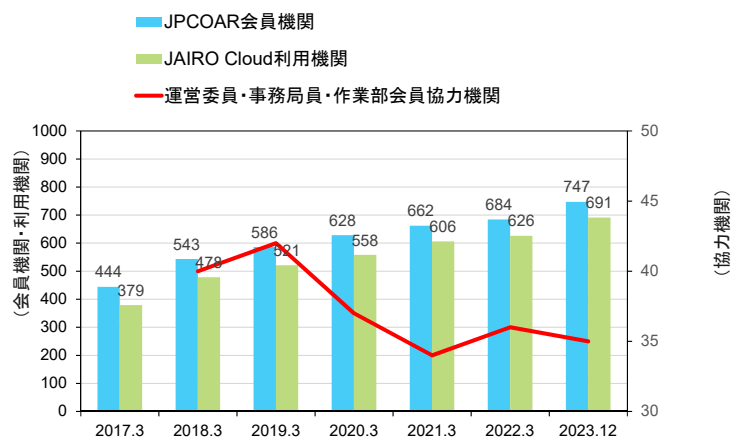
NII、JPCOARのそれぞれに反省すべき点

改善のために必要なこと

- JPCOARとNII双方において、JCというサービスのコンセプトを理解し、共同運営の役割や責任、関係性について共通認識を形成する必要がある
- JPCOAR(利用機関、運営委員会)とNII(学術コンテンツ課、RCOS)との間でコミュニケーションを改善する必要がある
- 過去の失敗について客観的な分析を行い、利用機関に対してこれまでの経緯を伝える必要がある
- 検討にあたっては、JCが持つべき機能や方向性を整理し、利用機関に対して今後の方針を明示的に伝える必要がある
- 共同運営にあたり、必要な予算や人員を精査し明確にする必要がある

NII、JPCOARのそれぞれに反省すべき点

会員機関の増加と協力機関数の推移



会員館の増加の経年のグラフ(JCとJC以外含む)に、運営委員・事務局員・作業部会員を出している会員数を重ねたもの。

作業部会員募集

2024年3月18日～4月12日(予定)

信頼と協働の「共同運営」へ

2023 年度 JPCOAR 総会 議案・報告説明

【議案】

第 1 号議案：2024 年度会長選出について

運営委員会から、オープンアクセスリポジトリ推進協会会則第 6 条による会長の選出にあたり、第 1 号議案のとおり推薦するものです。名古屋大学附属図書館は、本総会で承認されれば、会長として一期目となり、任期は、2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日となります。

第 2 号議案：2024 年度監事選出について

運営委員会から、オープンアクセスリポジトリ推進協会会則第 7 条による監事の選出にあたり、第 2 号議案のとおり推薦するものです。推薦の 2 会員が、本総会で承認されれば、東京外国語大学附属図書館、神戸市外国語大学ともに一期目の監事となり、任期は、2024 年 7 月 1 日～2025 年 6 月 30 日となります。2024 年 6 月 30 日までの監事は、東京海洋大学附属図書館と前橋工科大学となります。

第 3 号議案：2024 年度運営委員会委員について

オープンアクセスリポジトリ推進協会会則第 8 条及びオープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規程第 3 条による委嘱にあたり、第 3 号議案のとおり提案するものです。なお、議案資料の末尾にあるとおり、本総会以降に委員の変更がある場合は、臨時総会で承認を得るものとします。

第 4 号議案：2024 年度活動計画について

2021 年度総会において制定された「オープンアクセスリポジトリ推進協会活動方針（2022-2026 年）」に基づき、重点活動項目に対応する 3 つのグループ（コミュニティ、コンテンツおよびシステム）と各グループを構成する作業部会・タスクフォース（TF）の 2024 年度の活動計画をご提案するものです。方針の活動主体としては作業部会・TF の体制を継続し、各々の活動計画を記載しております。迅速な情報発信、継続的な学術コミュニケーションセミナーの開催、JPCOAR スキーマや識別子付与、SCPJ の利用、RDM 事例の共有のほか、JAIRO Cloud（WEKO3）への移行完了を受けて、JAIRO Cloud 作業部会を発足する計画としております。

第5号議案：2024年度予算について

オープンアクセスリポジトリ推進協会会則第13条に基づき、2024年度予算の提案を行います。

なお、2023年度決算については、2023年度の収入支出が確定する5月に監事監査を行い、臨時総会（メール審議）で承認を得る予定です。本総会においては、直近までの経過報告をしていますので、後段の**報告2**をご参照いただくようお願いいたします。

（JPCOAR 会計処理に係る基本方針）

- ・ 会計処理（請求・収入・支出等）のすべてを、NII（国立情報学研究所）が、機関として担って執行しています（機関経理）。
- ・ 機関経理として、会計年度内の収支均衡を原則として、予算執行を行っています（単年度会計）。
- ・ 収支均衡を達成するため、当初予算（総会承認）からの執行状況に応じて、運営委員会の承認を得て、項目間で予算・執行額の振替を実施しています。
- ・ 年度の収入支出が確定した後、監事監査を行い、その報告を臨時総会で審議し、承認を得ます。

◆ 2024年度予算（案）

〈収入の部〉

1. 会費

2024年度予算額

- ・ 2024年1月現在の会員数により算出
- ・ 会費収入額は、会費規程の別紙1の表1を適用して算出

〈支出の部〉

1. 事務局経費

（1）事務協力費

- ・ 事務補佐員人件費 1名

（2）事務局運営費

- ・ 会員コミュニケーションツール利用料
- ・ 問い合わせ対応チャットボット経費
- ・ 消耗品その他

2. 運営委員会等経費

- ・ 運営委員会(3回)、主査担当打合せ（旅費）。オンラインと集会形式の併用に対応して開催旅費を一部計上

- ・ 監事監査 オンラインを想定

3. 総会経費

- ・ オンライン総会を想定。オンライン会議運営支援経費を計上
- ・ 総会旅費 会長、運営委員会委員等の旅費

4. 図書館総合展出展

- ・ 現地開催の会場費・配信等の運営支援経費を計上

5. 事業推進経費

JPCOAR 活動方針（2022-2026 年）・2024 年度活動計画に基づき、計上

- ・ 広報・普及作業部会：広報 Web マガジンの発行
- ・ イベント運営作業部会：担当者向け研修、セミナー等の実施
- ・ コンテンツ流通促進作業部会：JPCOAR スキーマ Version 2.0 の普及活動
- ・ 研究データ作業部会：AXIES-RDM 部会等の外部機関との連携
- ・ JAIRO Cloud 作業部会：JAIRO Cloud ユーザーコミュニティのサポート
- ・ オープンアクセス推進検討タスクフォース：OA に関する調査・報告活動
- ・ 窓口委託経費
- ・ 調査等事業推進経費

6. 国際連携活動費

海外派遣旅費

- ・ 海外派遣
オープンアクセスリポジトリ連合（COAR（Confederation of Open Access Repositories） 2024 年次大会等への派遣旅費
- ・ オープンアクセスリポジトリ連合（COAR）会費
2024 年分の COAR 年会費

JAIRO Cloud 利用料金

〈収入の部〉

JAIRO Cloud 利用料金

- ・ JAIRO Cloud 利用機関からの収入
2024 年 1 月現在の JAIRO Cloud 利用数により算出。

〈支出の部〉

JAIRO Cloud 運用費

- ・ JAIRO Cloud 利用料金を JAIRO Cloud 運用経費に充当し、さらに運用経費の不足分は、NII が負担しています。また、効率的な運用のため NII の他のサービスと合わせて運用、経費執行しているため、詳細な内訳は開示しておりません（監事に対して詳

細を説明予定)。

【報告】

報告1) 2023年度活動について(報告)

8つの作業部会・TF(広報・普及作業部会、イベント運営作業部会、コンテンツ流通促進作業部会、研究データ作業部会、システム開発・連携作業部会、次期JC移行タスクフォース、オープンアクセス推進検討タスクフォース、JAIRO Cloud共同運営検討タスクフォース)を主体として「オープンアクセスリポジトリ推進協会活動方針(2022-2026年)」に基づく活動を実施しました。

報告2) 2023年度決算について(経過報告)

2023年度決算については、2023年度の収入支出が確定する2024年5月に監事監査を行い、臨時総会(メール審議)で承認を得る予定です。以下は直近までの経過報告です。

2023年度は、入会による収入増を、学術コミュニケーションセミナーのオンライン運営支援に充てるとともに、作業部会のオンサイト開催、国際会議の現地出席など、オンライン以外の活動についても支援を行いました。

◆ 2023年度決算(経過報告)

〈収入の部〉

1. 会費

- ・ 2023年度会員の新規入会により、当初予算より676千円の収入増

〈支出の部〉

1. 事務局経費

- ・ ほぼ、当初予算のとおり、執行。

(1) 事務協力費

- ・ 専任事務局員の出向元への事務協力費(5,000千円/年度)
- ・ 事務補佐員 1名

(2) 事務局運営費

- ・ 事務局運営費は、会員問合せ等への対応窓口委託、会員コミュニケーションツールとしてGoogle Workspace増強、問い合わせ対応用チャットボットの導入等に支出

2. 運営委員会等経費

- ・ オンライン会議に変更したため、旅費支出はなし。

3. 総会経費

- ・ 総会会場費：オンライン方式により、支出なし。
- ・ 総会運営費：オンライン方式により、オンライン総会運営支援経費を 400 千円で計上し、407 千円で執行。
- ・ 総会旅費：会長、委員長、その他運営関係者の総会中継場所への旅費

4. 図書館総合展出展

- ・ 図書館総合展フォーラムはハイブリッド開催となったため、オンラインイベント配信委託経費を 485 千円で支出。

5. 部会活動費

- ・ 部会活動費全体で、支出 3,400 千円を総額一括計上し、2,526 千円で執行。

広報・普及作業部会

- ・ 広報用パンフレット制作、ウェブマガジン契約料ほか

イベント運営作業部会

- ・ 学術コミュニケーションセミナーのオンライン運営支援経費を計上

コンテンツ流通促進作業部会

- ・ JPCOAR スキーマ改訂関連作業
- ・ XML エディター利用料

研究データ作業部会

- ・ 情報知識学会等での発表・意見交換

次期 JAIRO Cloud 移行タスクフォース

- ・ 次期 JAIRO Cloud 説明会担当打合せ

オープンアクセス推進検討タスクフォース

- ・ オンラインウェビナーの運営支援

6. 国際連携活動費

海外派遣旅費

- ・ Global Summit on Diamond Open Access (メキシコ) 現地参加者派遣
- ・ 18th International Digital Curation Conference (イギリス) 現地参加者派遣

オープンアクセスリポジトリ連合 (COAR) 会費

- ・ 2023 年会費を支出

JAIRO Cloud 利用料金

〈収入の部〉

JAIRO Cloud 利用料金

- ・ JAIRO Cloud 利用機関からの収入

〈支出の部〉

JAIRO Cloud 運用費

- ・ JAIRO Cloud 利用料金を JAIRO Cloud 運用経費に充当し、さらに運用経費の不足分は、NII が負担しています。また、効率的な運用のため NII の他のサービスと合わせて運用、経費執行しているため、詳細な内訳は開示しておりません（監査時に詳細を説明予定）。

報告 3) JAIRO Cloud (WEKO3) への移行について (報告)

移行完了について、資料のとおり報告します。

報告 4) JAIRO Cloud 共同運営検討タスクフォースの活動について (報告)

活動について、資料のとおり報告します。

以上

オープンアクセスリポジトリ推進協会会則

〔平成28年7月27日〕
制 定

第1章 総則

(設置)

第1条 本会は、オープンアクセスリポジトリ推進協会（以下「協会」という。）と称する。
英語名称は、**Japan Consortium for Open Access Repository** とし、略称を **JPCOAR** とする。

(目的)

第2条 協会は、リポジトリを通じた知の発信システムの構築を推進し、リポジトリコミュニティの強化と、我が国のオープンアクセス並びにオープンサイエンスに資することを目的とする。

2 協会は、前項の目的を達成するために、国公立大学図書館協力委員会と国立情報学研究所との間に締結された協定書に基づき設置された大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議と連携して活動する。

(定義)

第3条 この会則において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 一 リポジトリ 実験や調査で得られたデータなどの学術成果物を生成するまでに収集される中間生成物（以下「研究データ」という。）を含め、学術的な情報を電子的に保存し公開するものをいう。
- 二 オープンアクセス リポジトリ等を利用して学術論文等の学術成果物を無料で公開することをいう。
- 三 オープンサイエンス 学術論文等の完成された学術成果物のみならず、リポジトリ等を利用して研究データ等の中間的な生成物を活用できる形で公開することをいう。

(事業)

第4条 協会は、第2条の目的を達成するために次の重点目標を掲げ、事業を実施する。

- 一 オープンサイエンスを含む学術情報流通の改善
- 二 リポジトリシステム基盤の共同運営と有効活用
- 三 リポジトリ公開コンテンツのさらなる充実
- 四 担当者の人材育成のための研修活動
- 五 国際的な取組みに対する積極的連携
- 六 前各号のほか、協会の目的を達成するために必要な事業

第2章 組織

(会員の資格)

第5条 協会の会員資格は次のとおりとする。

- 一 国立大学図書館協会、公立大学協会図書館協議会、私立大学図書館協会のいずれかに属する図書館
 - 二 科学研究費補助金取扱規程（昭和40年3月30日文部省告示第110号）第2条1項で定める研究機関
 - 三 前二号に属する部局等
 - 四 国立情報学研究所
 - 五 その他、協会の目的に賛同する大学図書館等の施設であつて、運営委員会が認めたもの
- 2 前項の資格を満たし、第14条の規定により会員となったものは JAIRO Cloud を利用することができる。

(会長)

第6条 協会に会長を置く。

- 2 会長は、第10条に定める総会において、会員の中から選出する。
- 3 会長の任期は1年とし、期間は4月1日から翌年3月31日までとし、再任を妨げない。ただし、引き続き3年を超えて在任することはできない。
- 4 会長に選出された会員の長は、協会を代表する。

(監事)

第7条 協会に監事2を置く。

- 2 監事は、第10条に定める総会において、会員の中から選出する。
- 3 監事の任期は1年とし、期間は7月1日から翌年6月30日までとし、再任を妨げない。ただし、引き続き2年を超えて在任することはできない。
- 4 監事に選出された会員の長又は長を代理する者は、協会の会計を監査し総会で報告する。

(運営委員会)

第8条 協会を運営するために運営委員会を設置する。

- 2 前条第4項の者は、運営委員会の委員になることができない。
- 3 その他、運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務局)

第9条 協会の事務局は、国立情報学研究所に置く。

第3章 総会

(総会)

第10条 会長は、毎年1回通常総会を招集しなければならない。

2 会長は、必要があると認めるときは、臨時総会を招集することができる。

3 前項に定めるもののほか、会員の10分の1以上から総会の招集を請求されたときは、会長は、臨時総会を招集しなければならない。

4 臨時総会は、会員に文書等で議事に対する賛否を問うことにより代えることができる。

(議長)

第11条 議長は、第6条第4項の者が務める。

(定足数及び表決)

第12条 総会は、会員の過半数の出席をもって成立する。なお、委任状の提出をもって出席に代えることができる。

2 総会の議事は、本会則に別段の定めがある場合のほかは、出席会員の過半数をもって決する。

(議事)

第13条 次の事項は、総会において、承認を得なければならない。

- 一 年度事業の実施および計画に関する事項
- 二 会費の徴収および会計に関する事項
- 三 その他、必要とされる事項

第4章 参加、退会及び除名

(参加及び退会)

第14条 協会に参加を希望するものは、別に定める参加申請書を会長に提出しなければならない。

2 協会からの退会を希望する会員は、退会しようとする月の前月末までに、会長に退会届を提出しなければならない。同会員は、退会年度までの会費を完納するものとする。

3 会員の参加又は退会に関する処理は運営委員会で行い、総会で報告する。

(除名)

第15条 会員が会費を1年以上滞納したときは、運営委員会委員総数の過半数による決議によって、除名することができる。

2 前項の規定により会員を除名したときは、会長は、当該会員に対し、除名した旨を通知しなければならない。

第5章 会計

(会計年度)

第16条 協会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌3月31日に終わる。

(会費)

第17条 会員の会費に関し必要な事項は、別に定める。

第6章 会則の変更等

(会則の変更)

第18条 この会則は、総会において会員総数の3分の2以上の同意がなければ、変更することができない。

(解散)

第19条 協会を解散する場合は、総会において会員総数の4分の3以上の同意がなければならぬ。

第7章 雑則

第20条 この会則に定めるもののほか、この会則の施行について必要な事項は、別に定める。

附 則

本会則は、平成28年7月27日から施行する。

本会則は、平成30年4月1日から施行する。

平成29年度の監事は第7条3号の規定に関わらず、その任期を1年3か月とし、期間を平成30年6月30日までとする。

本会則は、2023年4月1日から施行する。

オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規程

平成 28 年 7 月 27 日
制 定

(設置)

第 1 条 オープンアクセスリポジトリ推進協会会則（以下「会則」という。）第 8 条の規定に基づき、オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(目的)

第 2 条 運営委員会は、オープンアクセスリポジトリ推進協会（以下「協会」という。）の円滑な運営のため、会則第 4 条に定める事業を企画・立案し、実施することを目的とする。

(委員)

第 3 条 運営委員会は、協会会員である施設等の職員 15 名以内により組織する。

2 運営委員会の委員は、会則第 10 条の総会（以下「総会」という。）において決し、会則第 6 条第 4 項の者が委嘱する。

3 総会で必要と認められた場合、協会会員である施設等の職員以外の者を委員とすることができる。なお、この場合の委員も第 1 項に定める定員に含むものとする。

(委員の任期)

第 4 条 委員の任期は 1 年とし、期間は 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第 5 条 運営委員会に委員長を置く。

2 委員長は委員の互選により選出する。なお、再任を妨げない。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を行う。

(作業部会)

第 6 条 運営委員会は、必要に応じて作業部会を設置することができる。

2 作業部会は次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 運営委員会の委員
- 二 前号に該当しない協会会員である施設等の職員
- 三 その他、運営委員会が必要と認められた者

3 作業部会に主査を置く。主査は、前項第 1 号から第 3 号の者のうちの一をもって充てる。

4 主査及び作業部会員は、委員長が委嘱する。

5 作業部会員の任期は 1 年とし、期間は 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。ただし、再任を妨げない。

6 作業部会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第7条 運営委員会の庶務は、協会の事務局において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成28年7月27日から施行する。

附 則

この規程は、2023年5月18日から施行する。

オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程

平成28年7月27日
制 定

(総則)

第1条 オープンアクセスリポジトリ推進協会会則（以下「会則」という。）の第16条に基づき、オープンアクセスリポジトリ推進協会（以下「協会」という。）の会費に関して必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規程における用語の定義は、次のとおりとする。

- (1) 「JAIRO Cloud サービス」とは、国立情報学研究所共用リポジトリサービス利用規程第2条に規定するサービスとする。
- (2) 「JAIRO Cloud 環境」とは、JAIRO Cloud サービスで使用する機関リポジトリ環境であり、JAIRO Cloud サービスの利用単位とする。
- (3) 「構成員数」とは、当該の利用機関に所属する「常勤の教員及び研究者」の人数とする。ただし、常勤の教員及び研究者を置かない機関にあっては、その人数は0人とする。
- (4) 「登録容量」とは、会員が1つの JAIRO Cloud 環境に登録等することができる上限のコンテンツ等の容量とする。
- (5) 「年度」とは、4月1日から翌年3月31日までとする。

(会費の区分)

第3条 協会の会費は、以下の各号に掲げる区分で構成する。

- 一 基本会費
- 二 JAIRO Cloud 利用料金
- 三 JAIRO Cloud 特別料金

(基本会費)

第4条 第3条第1号の基本会費は、別紙1の表1「基本会費」のとおりとする。

(JAIRO Cloud 利用料金)

第5条 第3条第2号の JAIRO Cloud 利用料金は、別紙2の表2「JAIRO Cloud 利用料金」のとおりとする。

- 2 JAIRO Cloud サービスの利用を希望する機関は、前項で定める JAIRO Cloud 利用料金を支払うものとし、1つの JAIRO Cloud 環境につき 100 ギガバイトを登録容量とする（以下「基本 JC サービス」という。）。
- 3 前項の規定にかかわらず、年度途中で利用開始となる場合には、利用開始月の翌四半期から当該年度末までの四半期ごとに前項の料金の 4 分の 1 を乗ずる額の合計額を利用料金とする。1 円未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てる。
- 4 2つ以上の基本 JC サービスを利用する会員は、第 2 項及び第 3 項に該当する JAIRO Cloud 利用料金を合計した利用料金を支払うものとする。

（JAIRO Cloud 特別料金）

第 6 条 第 3 条第 3 号の JAIRO Cloud 特別料金は、別紙 3 の表 3 「JAIRO Cloud 特別料金」のとおりとする。

- 2 JAIRO Cloud 環境において、100 ギガバイトを超える登録容量を希望する会員は、前項で定める JAIRO Cloud 特別料金を支払うものとし、申請した区分に応じてコンテンツ等を登録できるものとする（以下「特別 JC サービス」という。）。
- 3 区分は、当該会員の申請に基づき、決定する。登録容量を増加する場合のみ、年度途中で区分を変更できるものとする。その場合、変更後の申請区分に相当する料金全額との差額を納入するものとする。
- 4 2つ以上の「特別 JC サービス」を利用する会員は、申請した区分に応じた第 1 項に定める JAIRO Cloud 特別料金を合計した特別料金を支払うものとする。

（会費の請求）

第 7 条 協会は、第 3 条に規定する会費を請求する。

- 2 すべての会員は、基本会費を納入する。
- 3 会員は、利用する JAIRO Cloud サービスに基づき、JAIRO Cloud 利用料金又は JAIRO Cloud 利用料金と JAIRO Cloud 特別料金の合計額を納入するものとする。
- 4 協会は、前項の額に消費税を加えた額を請求する。
- 5 すべての会費は、協会の事務局が指定した期日までに、指定する金融機関に振り込むものとする。
- 6 協会は、支払済みの会費を返還しない。

（基本会費の納入）

第 8 条 会員は、毎年度、協会の事務局が指定する期日までに基本会費全額を納入するものとする。

- 2 基本会費の分納は、認めないものとする。
- 3 年度の途中から入会した場合も、年額を納入するものとする。

（JAIRO Cloud 利用料金の納入）

第9条 基本JCサービスを利用する会員は、利用開始後、及び、継続の場合は毎年度、当該年度のJAIRO Cloud 利用料金の年額を納入するものとする。ただし、年度途中の利用開始後の取扱いは、第5条第3項によるものとする。

2 年度途中で利用する基本JCサービスを追加する場合、当該会員は、前項の利用料金と追加の基本JCサービスに係る利用料金の合計金額を、納入するものとする。

3 JAIRO Cloud 利用料金の分納は、認めないものとする。ただし、基本JCサービスを追加する会員は、当該年度に納入したJAIRO Cloud 料金との差額を納入するものとする。

(JAIRO Cloud 特別料金の納入)

第10条 特別JCサービスを利用する会員は、利用開始後、及び、継続の場合は毎年度、当該年度のJAIRO Cloud 特別料金の年額を納入するものとする。

2 年度途中で登録容量を増加する場合又は利用する特別JCサービスを追加する場合、当該会員は、前項の特別料金と追加の特別JCサービスに係る特別料金の合計金額を、納入するものとする。

3 JAIRO Cloud 特別料金の分納は、認めないものとする。ただし、年度途中で登録容量を増加する場合又は利用する特別JCサービスを追加する会員は、当該年度に納入したJAIRO Cloud 特別料金との差額を納入するものとする。

(支援金)

第11条 会員及び会員以外の個人又は団体が会費以外の負担（以下「支援金」という。）を希望する場合は、運営委員会の承認を受けるものとする。

2 運営委員会委員長は、前項の事実が発生した場合には総会において報告を行うものとする。

(会費の管理)

第12条 会費及び支援金の管理は、協会の事務局を置く国立情報学研究所において行う。

附 則

この規程は、平成28年7月27日から施行する。

附 則

この規程は、2019年3月13日に改正し、2020年4月1日から施行する。

附 則

前の附則にかかわらず、この規程は、2021年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2020年3月17日に改正し、2021年4月1日から施行する。

別紙1

1. 第3条第1号の基本会費は、次の表1のとおりとする。

表1 基本会費

区分	構成員数	会費額（年額）
A	0 ～ 600 人	26,000 円
B	601 ～ 1,100 人	52,000 円
C	1,101 人～	78,000 円

別紙2

1. 第3条第2号の JAIRO Cloud 利用料金は、次の表2のとおりとする。

表2 JAIRO Cloud 利用料金

区分	構成員数	JAIRO Cloud 利用料金(税抜き・年額)
G1	0 ~ 100 人	40,000 円
G2	101 ~ 200 人	80,000 円
G3	201 ~ 300 人	120,000 円
G4	301 ~ 400 人	160,000 円
G5	401 ~ 500 人	200,000 円
G6	501 ~ 600 人	240,000 円
G7	601 ~ 700 人	280,000 円
G8	701 ~ 800 人	320,000 円
G9	801 ~ 900 人	360,000 円
G10	901 ~ 1,000 人	400,000 円
G11	1,001 ~ 1,100 人	440,000 円
G12	1,101 ~ 1,200 人	480,000 円
G13	1,201 ~ 1,300 人	520,000 円
G14	1,301 ~ 1,400 人	560,000 円
G15	1,401 ~ 1,500 人	600,000 円
G16	1,501 人~	640,000 円

別紙3

1. 第3条第3号のJAIRO Cloud特別料金は、登録容量に応じ、次の表3のとおりとする。

表3 JAIRO Cloud 特別料金

区分	登録容量	JAIRO Cloud 特別料金 (税抜き・年額)
S1	100GB 超 200GB 以下	20,000 円
S2	200GB 超 400GB 以下	40,000 円
S3	400GB 超 1,000GB(1TB)以下	100,000 円
S4～	1TB 超 2TB 以下	200,000 円
	登録容量が1TBを超える場合は、1TBを1区分として、1TBあたりの料金を100,000円として算出する。	

1) 本表における「区分」とは、当該の会員が利用する1つのJAIRO Cloud環境当たりの登録容量によるものとする。

オープンアクセスリポジトリ推進協会作業部会設置規程

2022年3月24日
オープンアクセスリポジトリ
推進協会運営委員会

(総則)

第1条 「オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規程」の第6条に基づき、「オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)活動方針(2022-2026年)(以下「方針」という。)」の重点活動項目を推進するため、オープンアクセスリポジトリ推進協会(以下「協会」という。)の運営委員会(以下「委員会」という。)に設置する作業部会について定める。

(設置する作業部会)

第2条 委員会の下に、方針の重点活動項目に基づく次の3つのグループに対応する作業部会を設置する。

(コミュニティグループ)

- (1) 広報・普及作業部会
- (2) イベント運営作業部会

(コンテンツ)

- (3) コンテンツ流通促進作業部会
- (4) 研究データ作業部会

(システムグループ)

- (5) JAIRO Cloud 作業部会
- (6) システム開発・連携作業部会

2 運営委員会は、必要に応じて、時限的又は横断的な課題に係るタスクフォースを、運営委員会又は作業部会のもとに設置できるものとする。

(コミュニティグループ)

第3条 機関リポジトリコミュニティの活性化のために、会員機関相互の情報・ノウハウ共有の強化と人材育成に取り組む。

(コンテンツグループ)

第4条 学術成果の普及・利活用を促進するために、会員機関が公開するコンテンツの多様化と利活用に取り組む。

(システムグループ)

第5条 会員機関とともに、JAIRO Cloud を国立情報学研究所と共同運営し、また、機関リポジトリの維持・発展に取り組む。

(作業部会の運営)

第6条 作業部会の活動方針及び活動計画は、作業部会の審議を経て作業部会主査（以下「主査」という。）が策定し、委員会の承認を得るものとする。

2 主査は、委員会において作業部会の活動状況を報告するものとする。

3 主査は、作業部会員から副主査を指名することができる。

4 作業部会の業務遂行において必要な場合は、作業部会委員以外の者の協力を得ることができるものとする。

(庶務)

第7条 各作業部会の庶務は、協会事務局において処理する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2019年3月13日に改正し、2019年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2022年3月24日に改正し、2022年4月1日から施行する。

J P C O A R

オープンアクセスリポジトリ推進協会

オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)活動方針

(2022-2026年)

2022年3月16日

2021年度総会決定

■はじめに [展望]

インターネットの発展による学術情報流通環境は、デジタルトランスフォーメーション(DX)の名のもとに本格的な革新のフェーズに入った。コンテンツのデジタル化、オンライン交流ツールの普及などにより、学術コミュニケーションは限りなくリアルタイムに近づくことになり、学術情報をめぐる環境のDXこそが、オープンサイエンスなどの新たな領域を切り拓いていくことになる。将来的には、世界中の研究者が、アバターをまとめてVR世界で一堂に会し、共同実験や議論を行うことが当たり前になるかもしれない。私たちは、新しい時代の研究環境に不可欠の基盤として、オープンアクセスリポジトリに基づく、学術情報の自由でオープンな共有ネットワークを確立し、加速する学術研究を支えていかねばならない。

■オープンアクセスリポジトリの役割 [ビジョン]

機関リポジトリは、学術雑誌掲載論文のセルフアーカイブの受け皿として生まれ、オンライン紀要の出版ツール、博士学位論文の制度的公表メディアとしても成長してきた。オープンサイエンスの広がりとともに、研究データの管理・利活用のための学術情報環境の整備が進むなかで、機関リポジトリには、さらに新たな役割を果たすことが求められている。

機関リポジトリを含むオープンアクセスリポジトリは、学術研究機関の情報発信をになう統合的ソリューションの中核概念である。そのネットワークは、教育や社会貢献なども含んだ学術活動を支え、同時に急速に進展するグローバルなリポジトリネットワークにあって我が国のプレゼンスを高める原動力となるべきだろう。

■オープンアクセスリポジトリ推進協会の活動方針

私たちオープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)は、オープンアクセスを推進することによって教育研究などの学術成果をオープンにしていくことを使命として、「リポジトリを通じた知の発信

システムの構築」(会則第2条)を推進する組織であり、3年間を計画期間とした中期戦略に基づいて活動してきた。2022年から2026年の5年間においては、3年間の成果をふまえて、活動の方針をさだめることとし、以下の3点を重点活動項目として、多様な会員機関の協働により、会員機関のコンテンツの充実支援、システムの整備・運用や我が国におけるオープンアクセス及びオープンサイエンスの推進をはかっていく。

■重点活動項目(2022-2026年)[ミッション]

1. 会員機関相互の情報・ノウハウ共有の強化と人材育成 <コミュニティ>

協会は、各会員機関が、個々の特性や置かれている状況に応じて細やかな情報交換を行い、その構成員に業務上必要な研鑽を積ませ、人材を育成していくことができるよう、その機会を創出する。また、協会は、オープンサイエンスに向けた先進的な取組事例(海外事例、類縁コミュニティや会員機関自身によるものを含む)の情報収集・共有化をすすめ、各会員機関が応用・活用できるようにする。また、国内外の関連団体との連携・協力をはかることにより、コミュニティを活性化する。

2. 会員機関が公開するコンテンツの多様化と利活用 <コンテンツ>

協会は、会員機関のリポジトリが擁する学術論文や研究データをはじめとする多様なコンテンツについて、総体として、また、種類ごとに、収集・管理・保存のノウハウを共有する。また、各種識別子を含むメタデータの標準化やFAIR原則への対応、流通促進を通じて、会員機関構成員の学術成果の普及・利活用を促進することにより、新たな成果につながるようなエコシステムの形成につとめる。

3. リポジトリシステムの維持・発展の促進 <システム>

協会は、主体的な運営者としての会員機関とともに、JAIRO Cloud を国立情報学研究所と共同運営する。また、会員機関の機関リポジトリがNII Research Data Cloudとの円滑な連携を実現できるよう、国立情報学研究所との連携・協力を進めるとともに、会員機関の声を集約して提言を行う。

■活動計画

JPCOARは、活動方針に沿って、重点活動項目を含む「リポジトリを通じた知の発信システムの構築」に資する活動計画を策定する。活動計画は、つねにフィードバックを行い、必要に応じて随時見直していく。作業部会及びタスクフォースは活動計画に基づいて事業、調査、研修などを実施し、総会において進捗状況を報告するものとする。

2023 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR) 活動計画

2023 年 3 月 16 日

総 会 承 認

1. 会員機関相互の情報・ノウハウ共有の強化と人材育成	
コミュニティ・グループ	活動計画
① 広報・普及作業部会	
(ア) 広報誌	ウェブマガジンを発行し、JPCOAR の活動成果発信および情報提供を行う。また、広報資料の作成を行う。さらに、ROARMAP 対応等、OA ポリシーリストの管理を行う。
(イ) ML 管理・ウェブサイト	ウェブサイト・SNS での迅速な情報発信を行う。また、メーリングリスト(ML)の管理を行い、利活用を促進する。
② イベント運営作業部会	
(ア) 担当者向け研修、セミナー等の実施	各会員機関の機関リポジトリ担当者が機関の特性や置かれている状況に応じて必要な研鑽を積めるような研修・セミナー、コミュニティ活性化を目的とした図書館総合展等のイベントを月 1 回程度実施する。運営事務の一部を業者委託する。
2. 会員機関が公開するコンテンツの多様化と利活用	
コンテンツ・グループ	活動計画
① コンテンツ流通促進作業部会	
(ア) JPCOAR スキーマ	JPCOAR スキーマ Version 2.0 の普及活動を行うとともに、DOI ガイドラインおよびメタデータ流通ガイドラインを改訂し、カタログ情報の流通に向けて関係機関との調整を図る。
(イ) DOI・ライセンス	識別子・ライセンスの調査結果に基づき、学術成果の普及・利活用を促進する。
(ウ) SCPJ	著作権ポリシーのデータメンテナンスを継続し、SCPJ の利用を推進するための方策を検討する。
② 研究データ作業部会	
(ア) RDM 教材作成	<ul style="list-style-type: none"> 国内のニーズに即した新たな RDM 教材の作成に向けて、予備調査等の準備を進める。 現行の RDM 教材の利活用拡大に繋がる事業を検討・実施するとともに、学認 LMS 上の RDM 教材の内容・運

	用面について協力する。
(イ) RDM 事例形成	<ul style="list-style-type: none"> ・2022 年度の機関向け RDM アンケートの結果を踏まえて、会員機関による RDM に役立つ事業を検討し、実施する。 ・AXIES-RDM 部会等の外部機関と連携しながら、RDM 事例形成に繋がる事業を展開する。
3. リポジトリシステムの維持・発展の促進	
システム(JAIRO Cloud)・グループ	活動計画
① JAIRO Cloud 作業部会 (活動開始は、JAIRO Cloud 移行完了後となる。)	
(ア) 利用サポート	<ul style="list-style-type: none"> ・JAIRO Cloud に関する参加機関の利用のサポートをする。 ・JAIRO Cloud に関する機能・設定・操作 等に関するオンラインの情報共有機会を作る。
(イ) 機能改善	JAIRO Cloud に関する機能改善の集約方法等について検討する。
(ウ) システム関連問い合わせ対応	メーリングリスト等を通じて JAIRO Cloud 利用支援を始めとする JAIRO Cloud コミュニティのサポートを行う。
② システム開発・連携作業部会	
(ア) ワークフロー開発	需要に基づくコンテンツ流通の促進とワークフローの軽減を目的に必要な調査・分析を行い、新しいワークフローの提案、必要な機能の開発協力を行う。
(イ) コミュニティ・フレームワーク	・JPCOAR として指標としての利用を検討する。COAR のフレームワーク見直しに貢献する。次のアンケート調査に向けての準備を進める。
③ 次期 JC 移行タスクフォース (移行完了後、3.-①JAIRO Cloud 作業部会に統合)	
(ア) 利用サポート	<ul style="list-style-type: none"> ・次期 JAIRO Cloud への移行に伴う参加機関の利用のサポートをする。 ・次期 JAIRO Cloud への移行に伴う機能・設定・操作 等に関するオンラインの情報共有機会を作る。
(イ) システム関連問い合わせ対応	メーリングリスト等を通じて次期 JAIRO Cloud 移行支援を始めとする JAIRO Cloud コミュニティのサポートを行う。

通常総会の電子的な通信並びに記録手段を用いた開催に関する細則

〔 2021年2月8日
制 定 〕

(目的)

第1条 この細則は、オープンアクセスリポジトリ推進協会会則（平成28年7月27日制定）（以下「会則」という。）第10条1項の規定に基づく通常総会を、電子的な通信並びに記録手段（以下「電子的手段」という。）を用いて開催し、会員による適正な議決権行使（会員が議案に対する賛否の意志を表明することをいう。）を確保するために必要な事項を定めることを目的とする。

(招集)

- 第2条 会長は、電子的手段を用い、または電子的手段と集合形式とを併用し、通常総会を招集することができる。
- 2 電子的手段には、オンライン会議システム、オンライン投票システム、電子メール等を含み、会長が、会員が一堂に会する通常総会と同等の十分な審議ができると判断した適切な手段によることができる。
- 3 会長は、本細則により通常総会を招集する場合には、次に掲げる事項を定めなければならない。
- 一 通常総会の開催方法
 - 二 通常総会の開催日時
 - 三 議案及び議案説明
 - 四 通常総会における会員の議決権行使の期間と方法
 - 五 通常総会に出席しない会員が、電子的手段によって事前に議決権を行使することができることとする場合は、その期間と方法
- 4 会長は、通常総会開催日の2週間前までに、会員に対して、前項の内容を含む通知を発し、通常総会を招集しなければならない。

(定足数)

- 第3条 会則第12条は、電子的手段による通常総会において準用する。この場合において、電子的手段による議決権行使も併せて出席とみなすものとする。
- 2 委任は、議決権の行使を事前に代理人に委ねるものであり、委任状の提出又はオンライン投票システムでの委任の意思表示と記録をもって出席に代えることができる。ただし、代理人には議長のみを指名できるものとする。

(決議)

第4条 通常総会の決議は、別段の定めがある場合を除き、第3条に規定する出席会員（以下「出席会員」という。）の議決の過半数をもって行う。

2 出席会員が、議決権行使の期間中に複数回の委任又は議決権行使を行った場合は、同期間の最終の議決権の行使をもって確定とする。

3 会長は、通常総会終了後、速やかに会員に決議を通知しなければならない。

4 前項にかかわらず、会長は、計数等議決に時間を要すると判断した場合は、後日、会員に決議を通知することができる。

(議決権行使期間の延長)

第5条 定足数に満たないことにより通常総会が成立しなかった場合は、それまでの議決権行使を有効とし、会長は、委任又は議決権の行使を行わなかった会員に対して、期間を定めて、委任又は議決権行使の記録の提出を促すことができ、その提出結果を、定足数及び第4条の議決に加えるものとする。ただし、延長は1回とし、最大10日とする。

2 会長は、前項期間終了後、議決を行い、会員に決議を通知する。

附 則

この細則は、2021年2月8日から施行する。

JAIRO Cloudを共同リポジトリとして利用する場合の会費等に関する細則

〔 2021年2月8日
制 定 〕

(目的)

第1条 この細則は、オープンアクセスリポジトリ推進協会会則（平成28年7月27日制定）（以下「会則」という。）第16条の規定に基づき、オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程（平成28年7月27日制定、2021年4月1日施行）（以下「会費規程」という。）に定めるもののほか、会員がJAIRO Cloudサービスを共同リポジトリとして利用する場合の会費等について必要な事項を定めることを目的とする。

(定義)

第2条 本細則における用語の定義は、会則及び会費規程に定義するもののほか、次のとおりとする。

- 一 共同リポジトリとは、複数の会員が共同してJAIRO Cloud環境を構築し、リポジトリを運用するものをいう。
- 二 構成会員とは、同一の共同リポジトリを構築・運用する会員をいう。

(JAIRO Cloudの利用申請)

第3条 共同リポジトリ構築のためのJAIRO Cloudの利用申請にあたっては、構成会員のうち一つを代表として申請する。

(基本会費)

第4条 構成会員の基本会費は、会費規程第4条の規定により構成会員ごとに請求する。ただし、会則第5条三号に定める部局等（以下「部局等」という。）の基本会費は、当該の部局等の構成員数に基づく区分を適用する。

(JAIRO Cloud利用料金等)

第5条 JAIRO Cloud利用料金は、会費規程第5条及び第9条の規定により構成会員ごとに請求する。ただし、部局等のJAIRO Cloud利用料金は、当該の部局等の構成員数に基づく区分を適用する。

- 2 JAIRO Cloud特別料金は、会費規程第6条及び第10条の規定により、第3条による代表あてに請求する。

(JPCOAR会費納入)

第6条 基本会費及びJAIRO Cloud利用料金は、構成会員ごとに納入するものとする。

- 2 JAIRO Cloud特別料金は、第3条による代表が一括して納入するものとする。

附 則

- 1 この細則は、2021年4月1日から施行する。
- 2 当分の間は、コンテンツ及びメタデータの登録等を行う共同リポジトリ等をJAIRO Cloud利用料金及び特別料金の対象とし、メタデータのみの登録等を行う場合は対象としない。ただし、メタデータのみの登録等を行う場合については、特別JCサービス及び複数のJAIRO Cloud利用申請は認めない。

附 則

- 1 この細則は、2022年4月1日から施行する。

次期 JAIRO Cloud 移行タスクフォース設置に関する申合せ

2021年3月29日

2022年1月26日

2023年2月 1日

2023年3月30日

オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会決定

(総則)

第1条 「オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規程」第8条に基づき、オープンアクセスリポジトリ推進協会（以下「協会」という。）の運営委員会（以下「運営委員会」という。）に設置する次期 JAIRO Cloud 移行タスクフォース（以下「TF」という。）について定める。

(設置の目的)

第2条 協会が国立情報学研究所と共同運営する JAIRO Cloud について、次期 JAIRO Cloud への移行作業に伴い、会員間並びに JAIRO Cloud 利用機関間の相互支援を強化することを目的とする。

(構成員)

第3条 TF は次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 運営委員会の委員
- 二 前号に該当しない協会会員である施設等の職員
- 三 その他、運営委員会が必要と認められた者

2 TF に主査を置く。主査は、前項の委員のうちの一をもって充てる。

3 主査及び TF 作業部会員（以下「作業部会員」という。）は、運営委員会委員長が委嘱する。

4 作業部会員の任期は、附則に規定する失効までの期間とする。

5 主査は、必要な場合は、作業部会員以外の者の協力を得ることができるものとする。

(作業部会の運営)

第4条 TF の活動方針及び活動計画は、TF の審議を経て主査が策定し、運営委員会の承認を得るものとする。

2 主査は、運営委員会において TF の活動状況を報告するものとする。

3 その他、TF の運営については、「オープンアクセスリポジトリ推進協会作業部会設置規程」を準用する。

附 則

(施行期日)

- 1 この申合せは、運営委員会決定の日から施行する。
(この申合せの失効)
- 2 この申合せは、2024年3月31日限り、その効力を失う。

附 則 (2022年1月26日)
(施行期日)
この申合せは、運営委員会決定の日から施行する。

附 則 (2023年2月1日)
(施行期日)
この申合せは、運営委員会決定の日から施行する。

附 則 (2023年3月30日)
(施行期日)
この申合せは、運営委員会決定の日から施行する。

オープンアクセス推進検討タスクフォース設置に関する申合せ

2023年6月9日

オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会決定

(総則)

第1条 「オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規程」第8条に基づき、オープンアクセスリポジトリ推進協会（以下「協会」という。）の運営委員会（以下「運営委員会」という。）に設置するオープンアクセス推進検討タスクフォース（以下「TF」という。）について定める。

(設置の目的)

第2条 オープンアクセスの諸類型の現況を踏まえ、今後機関リポジトリが目指すべき方向性について検討することを目的とする。

(構成員)

第3条 TFは次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 運営委員会の委員
 - 二 前号に該当しない協会会員である施設等の職員
 - 三 その他、運営委員会が必要と認められた者
- 2 TFに主査及び副主査を置く。主査及び副主査は、前項第1号から第3号の者のうちの一をもって充てる。
- 3 主査及び副主査ならびにTFメンバー（以下「メンバー」という。）は、運営委員会委員長が委嘱する。
- 4 メンバーの任期は、附則に規定する失効までの期間とする。
- 5 主査は、必要な場合は、メンバー以外の者の協力を得ることができるものとする。

(TFの運営)

- 第4条 TFの活動方針及び活動計画は、TFの審議を経て主査が策定し、運営委員会の承認を得るものとする。
- 2 主査は、運営委員会においてTFの活動状況を報告するものとする。
- 3 その他、TFの運営については、「オープンアクセスリポジトリ推進協会作業部会設置規程」を準用する。

附 則

(施行期日)

- 1 この申合せは、運営委員会決定の日から施行する。

(この申合せの失効)

- 2 この申合せは、2024年3月31日限り、その効力を失う。

JAIRO Cloud 共同運営検討タスクフォース設置に関する申合せ

2023年12月8日

オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会決定

(総則)

第1条 「オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規程」第8条に基づき、オープンアクセスリポジトリ推進協会（以下「協会」という。）の運営委員会（以下「運営委員会」という。）に設置する JAIRO Cloud 共同運営検討タスクフォース（以下「TF」という。）について定める。

(設置の目的)

第2条 オープンアクセスリポジトリ推進協会と国立情報学研究所による JAIRO Cloud の共同運営における役割の明確化について検討を行い、JAIRO Cloud の安定的な品質管理及び運営に資することを目的とする。

(構成員)

第3条 TF は次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 運営委員会の委員
- 二 協会会員機関のうち JAIRO Cloud 利用機関の職員
- 三 国立情報学研究所の職員

2 TF に主査を置く。

3 主査及び TF メンバー（以下「メンバー」という。）は、運営委員会委員長が委嘱する。

4 メンバーの任期は、附則に規定する失効までの期間とする。

5 主査は、必要な場合は、メンバー以外の者の協力を得ることができるものとする。

(TF の運営)

第4条 TF の活動方針及び活動計画は、TF の審議を経て主査が策定し、運営委員会の承認を得るものとする。

2 主査は、運営委員会において TF の活動状況を報告するものとする。

3 その他、TF の運営については、「オープンアクセスリポジトリ推進協会作業部会設置規程」を準用する。

附 則

(施行期日)

- 1 この申合せは、運営委員会決定の日から施行する。

(この申合せの失効)

- 2 この申合せは、2024年3月31日限り、その効力を失う。

2023 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR) 総会資料 正誤表
(公開資料に反映済)

➤ p.6 資料 4

2024 年度 JPCOAR 活動計画 (案) 冒頭右上

(誤) 2024 年 3 月 13 日

総会承認

(正) 削除

➤ p.8 資料 5

2024 年度 JPCOAR 予算案

・「事務協力費」の「備考」

(誤) 出向元への事務協力費：専任の事務局員

(正) 2023 年度出向元への事務協力費

・「事務補佐員人件費」の「備考」

(誤) NII への事務協力費：事務補佐員

(正) 事務補佐員

・「5.事業推進経費」下から 2 番目 「調査等事業推進経費」 増減額

来年度予算額 (C) - 今年度決算見込額 (D)

(誤) 5,025,000 - 0 = 2,355,000

(正) 5,025,000 - 0 = 5,025,000

・「備考」に各作業部会・TF 予算の用途について追記した。

・広報・普及作業部会

ウェブマガジン運営費・取材費・反訳費

・イベント運営作業部会

オンラインイベント配信委託経費

・コンテンツ流通促進作業部会

SCPJ 更新費用

・研究データ作業部会

海外招聘、会議発表費用

- ・ JAIRO Cloud 作業部会
JC 操作説明会、作業部会費用
- ・ オープンアクセス推進検討 TF
タスクフォース開催旅費

- ・ JAIRO Cloud 利用料金<支出の部>

(誤) 2024 年度当初予算額

(正) 2023 年度当初予算額

- p.9 2024 年度予算案の科目の整理について
「2.」について以下のとおり修正を行った。

(修正前)

2. 出向者に対する事務協力費は調査等事業推進経費に計上する。2024 年度より事務局への事務作業を行う出向者を廃止し、協会の活動に関連した調査、研究、活動支援を行う業務内容としたためである。

(修正後)

2. 出向者に対する事務協力費は「事務局経費」から「事業推進経費」へ移し、調査等事業推進経費に計上する。2024 年度より出向者の業務から事務作業を削除し事務局には配置しないこととし、協会の活動に関連した調査、研究、活動支援を行う業務内容に限るとしたためである。

- p.15 報告 1
3. 2023 年度作業部会・タスクフォースの活動
(3) 成果物

(誤) 4) <https://doi.org/10.5281/zenodo.10494845>

5) JAIRO Cloud (WEKO3) サポートの更新 (基本マニュアルの更新、「本番移

(正) <https://doi.org/10.5281/zenodo.10494845>

4) JAIRO Cloud (WEKO3) サポートの更新 (基本マニュアルの更新、「本番移

- p.27 報告 1
2. 会合・活動

(誤) 2 月 X 日 第 2 回作業部会

(正) 削除

➤ p.37 報告2

2023 年度 JPCOAR 決算（経過報告）

・「事務協力費」の「備考」

（誤） 出向元への事務協力費：専任の事務局員

（正） 2023 年度出向元への事務協力費

・「事務補佐員人件費」の「備考」

（誤） NII への事務協力費：事務補佐員

（正） 事務補佐員

・ JAIRO Cloud 利用料金 2023 年度当初予算額

（誤） 77,836,000

（正） 78,496,000

➤ p.61 参考資料

4. 図書館総合展出展

（誤） 図書館総合展フォーラムはオンライン開催となったため、オンラインイベント運営委託経費を 485 千円で支出。

（正） 図書館総合展フォーラムはハイブリッド開催となったため、オンラインイベント配信委託経費を485 千円で支出。

➤ p.61 参考資料

5. 部会活動費 広報・普及作業部会

（誤） インタビュー謝金

（正） 広報用パンフレット制作

➤ p.61 参考資料

5. 部会活動費 コンテンツ流通促進作業部会

（誤） 識別子付与普及インタビュー記録

（正） XML エディター利用料